

令和3年度

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検・評価報告書



令和4年9月

邑南町教育委員会

目 次

はじめに	・・・	1
1 教育委員会の開催実績	・・・	1
2 教育委員の諸活動	・・・	4
3 教育委員の研修等	・・・	4
4 教育委員会だより	・・・	4
5 教育委員会所見	・・・	5
6 第三者評価期間委員からの意見骨子	・・・	11
7 令和3年度邑南町教育委員会点検・評価表	・・・	14
(P 1～P 34)		

資料 教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

令和3年度教育委員会点検・評価と公表についての自己評価について

はじめに

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第26条により、教育委員会は、事務の管理及び執行について点検・評価を行い、その結果の報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されています。邑南町教育委員会では、効果的な教育行政の推進と町民への説明責任を果たすために、邑南町教育施策の実施計画をもとに、自己点検及び評価を行い、第3者評価委員の意見をふまえて議会へ報告します。

1 教育委員会の開催実績

定例（毎月開催）の教育委員会…12回

臨時の教育委員会…6回

*詳しくは以下のとおりです。

開催日	主要議題（報告事項、予算関連事項、その他の事項除く）
4月 2日	1. 指定学校変更について 2. 瑞穂ハンザケ自然館運営委員会委員の委嘱について
4月20日	1. 学校支援地域コーディネーターの委嘱について 2. 社会教育主事の任命について 3. 令和3年度邑南町小中学校主任等発令意見具申について 4. 邑南町教育支援委員会委員の委嘱について 5. 邑南町立小学校及び中学校管理規則の一部改正について
5月10日	1. 邑南町社会教育委員の委嘱について 2. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第2号（案）について
5月31日	1. 邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助実施要綱の一部改正について 2. 邑南町ICT教育推進事業補助金交付要綱の制定について 3. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第3号（案）について 4. 指定校変更について 5. 邑南町結核対策委員会の委嘱について
6月24日	1. 令和3年度邑南町教育施策実施計画について 2. 邑南町公民館運営審議会委員の委嘱について 3. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 4. 邑南町食育推進会議設置要綱の一部改正について

	<ul style="list-style-type: none"> 5. 邑南町食育推進会議委員の委嘱について 6. 教育支援委員会への諮問について
7月12日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 2. 令和3年度邑南町一般会計予算第5号(案)について 3. 指定校変更について 4. 石見中学校改築基本設計について
7月21日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教育支援委員会の答申について 2. 邑南町教育委員会の点検評価及び公表に係る第3者評価機関委員の委嘱について 3. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について
8月2日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について(継続審議)
8月23日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 指定学校変更について 2. 一般図書採択について 3. 邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検評価について 4. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第7号(案)について 5. 教育支援委員会の答申について
9月28日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について 2. 指定学校変更について 3. 教育支援委員会の諮問について
10月8日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 邑南町要保護及び準要保護児童生徒就学援助実施要綱の一部改正について 2. 指定学校変更について
11月12日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 区域外就学について 2. ハラスメントの防止に関する要綱の一部改正について
11月26日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 教育支援委員会の答申について 2. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第10号(案)について 3. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第11号(案)について
12月24日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 指定校変更について 2. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助の認定について
1月19日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 指定学校変更について 2. 邑南町立小中学校の教職員の服務規則の一部変更について 3. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助新入学児童生徒学用品費の支給認定について 4. 区域外就学について
2月8日	<ul style="list-style-type: none"> 1. 令和3年度要保護及び準要保護児童生徒就学援助新入学児童生徒学用品費の追加支給認定について 2. 教職員人事異動内申について 3. 邑南町立小学校及び中学校通学区域に関する規則の一部改正

	<p>について</p> <p>4. 邑南町立学校施設整備の開放に関する規則の一部改正について</p> <p>5. 邑南町児童に係る経費負担助成金交付要綱の一部改正について</p> <p>6. 邑南町立小学校小規模特別認定校制度実施要綱の一部改正について</p> <p>7. 邑南町G I G Aスクールオンライン学習用ルーター貸出要綱の一部改正について</p> <p>8. 指定校変更について</p> <p>9. 邑南町立図書館条例施行規則の一部改正について</p> <p>10. 邑南町郷土館条例施行規則の一部改正について</p> <p>11. 邑南町フィンランド共和国交流派遣実施要綱の一部改正について</p> <p>12. 区域外就学について</p>
2月25日	<p>1. 邑南町スクールバス条例の一部改正について</p> <p>2. 邑南町スクールバス条例施行規則の一部改正について</p> <p>3. 邑南町奨学基金条例の一部改正について</p> <p>4. 令和3年度邑南町一般会計補正予算第13号(案)について</p> <p>5. 令和4年度邑南町一般会計当初予算(案)について</p> <p>6. 指定管理者の指定(案)について</p> <p>7. 区域外就学について</p> <p>8. 邑南町文化財保護条例施行規則の一部改正について</p>
3月25日	<p>1. 公民館長の任命について</p> <p>2. 指定学校変更について</p> <p>3. 邑南町外国語指導助手任用規則の一部改正について</p> <p>4. 学校医、学校歯科医及び学校薬剤師の委嘱について</p> <p>5. 令和4年度邑南町一般会計当初予算(案)について</p> <p>6. 邑南町奨学基金条例施行規則の一部改正について</p> <p>7. 邑南町立小・中学校文書取扱規程の一部改正について</p> <p>8. 邑南町立小学校及び中学校管理規則の一部改正について</p> <p>9. 邑南町国際交流員任用規則の一部改正について</p> <p>10. 邑南町スクールバス条例施行規則の撤回について</p> <p>11. 教育支援委員会の答申について</p>

2 教育委員の諸活動

- ①学校行事への出席(入学式、卒業式など)
- ②町、教育委員会行事への出席(成人式など)
- ③その他の活動(学校訪問、総合教育会議など)

*詳しくは以下のとおり

開催日	内 容
4月 2日	教職員着任式
4月 9日	小中学校入学式
6月28日	学校訪問（6/28 羽須美中、石見中、瑞穂中）
30日	（6/30 石見東、市木小、矢上小、日貫小）
7月 5日	（7/ 5 高原小、阿須那小、口羽小、瑞穂小）
9月 9日	邑智郡中学校弁論大会
10月28日	島根県教育長陳情（島根県教育庁）
2月14日	第1回総合教育会議 テーマ「コロナ後の教育のあり方について」
1月 3日 9日	成人式
3月 9日	中学校卒業式（新型コロナウイルスにより来賓自粛）
3月18日	小学校卒業式（新型コロナウイルスにより来賓自粛）
3月31日	教職員退任式

3 教育委員の研修など

新型コロナウイルス感染症の影響により各種研修会中止。

開催日	研 修 内 容

4 教育委員会だより

令和3年度は、教育委員会だより「邑南の教育」を年3回発刊しました。

内容は、教育委員会の会議などの活動状況に加え、各学校の紹介、社会教育関係行事などの紹介をしました。

5 教育委員会所見

地方教育行政の組織及び運営に関する法律が改正され、教育の政治的中立性、継続性、安定性を確保しつつ、地方教育行政の責任体制が明確化された、新たな教育委員会制度が、平成27年4月1日から施行され、邑南町教育委員会では平成28年から新制度に移行しています。

毎年度「教育施策の実施計画」を定め、具体的な事業内容については教育委員会日より「邑南の教育」を通じて、町民の皆様方へお知らせしてきました。

教育委員は、「教育の魅力化」の推進のため学校訪問により各校の抱える課題の把握に努めました。「コロナ後の教育のあり方」をテーマにした総合教育会議を実施しました。

新型コロナウイルス感染症拡大のために様々な事業の中止や、オンラインでの開催を工夫し実施しました。

以下、令和3年度の主な事業です。

(1) 教師力向上対策事業・学力向上対策事業の取り組み

【教師力向上対策事業】

①学び合い訪問指導（計14回）

主体的・対話的で深い学びの実現の為に必要な授業づくりの手法を研究するための事業

講師：山下 政俊氏（邑南町学び合い専任講師）

②情報活用教育講座

図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学ぶ事業

講師：塩谷 京子氏（放送大学客員准教授）

③多様性教育ガイドセミナー

自分との関わりを大切にし、差別を読み解く確かな力、差別に立ち向かう力を伸ばすための手法を学ぶ事業

講師：土田 光子氏・森 実氏（おおさか多様性教育ネットワーク 共同代表）

④おおなん郷土塾

邑南町内の歴史や文化を巡り、ふるさと教育の一助となる事業

講師：地域講師、邑南町教育委員会職員

【学力向上対策事業】

①辞書引き学習会の実施

小学校1年生から辞書引き学習に取り組み、子どもの読解力を高めたり、調べたりする力を育てるための事業

講師：深谷 圭助氏（中部大学教授）

神永 暁氏（NPO こども・ことば研究所 副理事長）

②リーディングスキルテストの実施

小学校6年生を対象にWebにてリーディングスキルテスト（読解力テスト）を実施し、その結果を分析し、各校の学力向上に役立てる事業

③花まる算数教室の実施

全小学生の希望参加で、年間7回（羽須美地域、瑞穂地域、石見地域 同時開催）算数の基礎的・基本的な問題や発展的な問題を解くことで、基礎的な学力育成を図るとともに、算数の対する意欲向上を高める事業

講師：地域ボランティア、地元高校生

④調べる学習作品展の実施

町内の小中学校から調べ学習の作品を募集、展示、評価する機会をつくることで、図書館活用教育などの充実を図る事業

○前期～9月中旬、後期～1月下旬から2月上旬に実施

⑤おおなんドリーム学びの集いの実施

各学校において、公民館や地域の方々の協力も得ながらふるさとにおける課題解決型学習を行い、子どもたちの活動について評価や意味づけをすることで持続可能な社会の担い手を育成する事業

講師：清國 祐二氏（独立行政法人教職員支援機構つくば中央研修センター長）

(2) 学校の魅力化

①地域とともにある学校づくり

地域子ども達にどのように育ってほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組むことを目的として、モデル地域を設定し地域の住民や行政、学校（小・中学校）、PTAが主体的・創造的な対話を行いながら、一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校づくり」の取組みを進めました。

○羽須美地域 羽須美地域全体を対象とした羽須美中学校区

○瑞穂地域 瑞穂地域全体を対象とした瑞穂中学校区

○石見地域 石見地域全体を対象とした石見中学校区

②邑南町小規模特別認定校制度による取組

自然環境を生かすなど、特色ある教育を推進している小学校に一定の条件を付して通学区域外からの就学を認めることにより、児童の心身の健康増進と豊かな人間性を培うこと、また学校の活性化を図ることを目的とした小規模特別認定校制度を令和元年度に創設し、日貫小学校を指定校としております。

このことに関して保育所年長児の保護者に対し説明会を実施し、小規模特認校制度の概要や指定校である日貫小学校の魅力などの説明、実際に通学する上での課題の抽出などを行いました。

(小規模特別認定校への就学の条件)

(1) 邑南町に居住していること

(2) 小規模特認校の教育活動に賛同し、協力すること

(3) 保護者などの責任と負担において、児童が安全に通学できること

(4) 原則として1年間以上、最長で卒業するまで就学できること

(3) 学校施設整備事業の実施

新型コロナ対策交付金を活用し小中学校のトイレの改修を計画しましたが、世界的なコロナの影響により製造規制となり事業を中止しました。またLED照明の更新について計画しておりましたが、安全基準の適合が確保や単価改正などの理由に

より中止しました。

(4) 石見中学校改築基本・実施設計業務

令和2年度から行っていた基本設計について令和3年6月に完成し、その後実施設計に着手し、実施設計に意見反映をするため石見中の生徒を対象としLGBTに配慮したトイレや更衣室についてワークショップを行いました。また地域住民の方を対象とし地域と学校を結ぶ新たな学校の在り方についてワークショップを行いました。今後は改築工事に向けて準備を進めていきます。

(5) 新型コロナウイルス感染症拡大への対応

全国的な感染拡大や島根県内での急速な感性拡大により島根県知事から1月18日付けで直近1週間の人口10万人当たりの新規感染者50人以上の市町村長に対し学校の休校について要請があり、邑南町内でも直近1週間で60人以上の新規陽性者もいたため協議の結果受け入れを行いました。期間は令和4年1月22日から1月31にまで中学校3年生を除き一斉臨時休業を行いました。2月1日から通常どおり再開しました。

(6) GIGAスクール整備について

令和3年度において中学校1校、小学校2校をモデル校としてタブレットを活用した学習の方法や家庭に持ち帰っての学習などについて取り組みを行いました。

(7) 公民館のあり方

歴史ある公民館の新しい可能性を探求し、地域住民と共に持続可能なコミュニティデザインを作っていくための学び合いの場として社会教育フォーラムを開催しました。

公民館が、課題の発見から解決への学びや活動など住民の主体的な学びや学び合いをとおして、住民同士の交流や仲間づくりを支援する場であることをいま一度再確認し、人が集う学びの場をめざした環境づくりに努めました。

また、公民館などを核とした人づくり機能強化事業の補助事業を受け、持続可能な地域づくりを担う人材育成に努めました。

(8) 東京2020オリンピック・パラリンピック関連事業について

障がい理解と障がい者理解を最大の目的としたフィンランド共和国ゴールボールチーム合宿招致については、新型コロナウイルス感染症拡大のため延期となりましたが、理解を深めていただくための取り組みを実施いたしました。

①パラリンピック競技（ゴールボール）の体験会や出前講座の実施

②心のバリアフリー研修会の実施

③おおなんバリアフリーマップの作成

④東京パラリンピック聖火リレー 邑南町採火式・島根県集火式

また、豊かな国際感覚と日本人としての自覚と責任感を身につけ、ふるさととグローバル社会に貢献できる人材の育成を目的としたフィンランド共和国交流派遣事業については合宿同様、新型コロナウイルス感染症拡大のため中止となりました。

今後は交流派遣事業と並行してオンラインや手紙交流など直接現地に行くことができなくとも、お互いの国の文化をより深く学ぶことができることにも取り組んでいきます。

誰もが暮らしやすい町、共生社会の実現を目指すために「おおなんバリアフリーマップ」を作成しました。作成にあたって、町内のまち歩き点検を実施し、本町のバリアフリーの実情について調べる取組を行ないました。また、多様な障がいに対する配慮や実際の行動につなげるための気づきの機会として「心のバリアフリー研修」を実施し、ハード面が整備されていないときに人々の思いやりや優しきでカバーすることができる具体策や解決策を考えました。完成した「おおなんバリアフリーマップ」は町内の公民館や周辺施設に設置し活用しています。

(9) 久喜銀山遺跡の国史跡に向けた取り組み

平成22年度から実施してきた久喜銀山遺跡調査について、それぞれ成果をまとめ29年度末に報告書を発刊しました。その成果を元に、調査成果のさらなる価値付けなどについて、文化庁の調査官に指導していただきました。特に令和2年度に実施した縄手遺跡の調査で、16世紀後半から17世紀初頭にかけて操業していたことが判明し、当地において長い年月にわたり同様の手法で操業していたことが確認できました。この成果は総括報告書にまとめて、令和2年度に文化庁へ国史跡にするよう意見具申書を提出しました。令和3年度10月11日の官報告示で、国史跡として正式に指定されました。11月20、21日の両日には、国史跡指定を記念した式典並びに記念講演、現地見学会を開催しました。今後は、主要な構成遺物の保存、地域の宝としての活用策を盛り込んだ「保存活用計画」の策定が必要となります。

6 第3者評価機関委員からの意見骨子

1. 生きる力を育む教育の推進（学校教育課）

施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

1)点検・評価P2事務事業名③確かな学力を育む

- ・外国語指導助手(A L T)が3名体制ということは、非常にいいことだと思います。空き時間を利用して英会話をやりたい生徒に対して機会をつくってほしい。
- ・算数・数学は、問題解決の論理的な考え方や、課題に対してのアプローチが育まれていく科目だと思います。県平均レベルまであげる取組をしてほしい。
- ・基礎的な算数の力をつけるなかでいろいろなデータがでてくるとは思いますが、データ分析をして授業につなげる取り組みをしてほしい。

2)点検・評価P7事務事業名⑤就学環境の充実

- ・スクールバス宇都井線について、生活交通の方はデマンドに移行しているのであれば、スクールバスは、純粋なスクールバスにした方がいいのでは。
- ・スクールバスについて、瑞穂小学校のバスも混乗型となっているため停車時間が短く、停留場が道の駅であるため、国道を横断しなければならない。雨や雪の日は危険である。スクールバスが学校の前にとまるのであればありがたい。
- ・就学援助費の給付を見ると、国の基準額に準じて町独自の支援を行うとあるが、給食費が必要な方に、手厚く援助してほしい。

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

1)点検・評価P8事務事業名①地域を担う意識の育成

- ・小規模特認校制度について、日貫小学校の特色を生かし、町内各地から来てもらう取り組みをしてほしい。

施策3 「安心・安全な教育環境づくり」への支援

1)点検・評価P10事務事業名①学校設備の整備

- ・羽須美体育館が利用できなかったり、学校のプールや遊具が使えなかったりしていますが、修繕の計画の対象になっていないのか。早く使えるようにしてほしい。
- ・熱中症アラートのため夏休みにプールを利用できない。利用する時間を午前や夕方など柔軟な対応をしてほしい。

3. 地域文化の創造

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

1) 点検評価P 3 1 事務事業名②ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援

- ・久喜銀山でガイドしている方の力は大きいと思います。町は支援をしているのでしょうか。またガイドさんを育てる支援をする必要があると思います。
- ・久喜銀山について石見銀山資料館長の仲野先生に地元で講演会をしてもらい町民のみなさんに知ってもらうようにしてはどうか。

令和4年8月16日

邑南町教育委員会の権限に属する事務の点検、評価に係る第3者評価機関

委員	高橋	智也
委員	白須	紀之
委員	森脇	靖
委員	鳥居	清枝
委員	中村	昌史
委員	長谷川	淳
委員	川中	幸子
委員	大西	淳子
委員	澤田	麻里子
委員	八田	一利

7. 令和3年度邑南町教育委員会点検・評価表

別添のとおり。なお、新型コロナウイルス感染症に伴う各種事業の延期や中止については、実績評価の点数には影響させていません。

令和3年度邑南町教育委員会点検・評価表

【総合評価】

主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】

「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向性を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】

「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階で評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階で評価することとする。

1. 生きる力を育む教育の推進(学校教育)

施策1 「安心・安全・信頼の学校・学級づくり」

～つながり合い、学び合い、高めあう教室・学校づくり～

事務事業名	① 人権・同和教育の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>教育委員会や学校において多くの研修機会を設けるとともに、教職員で構成する町教育研究会の人権・同和教育部会でも継続して職員研修を行い、学校全体で人権意識の高揚を図り、進路保障の取り組みに努めている。 今後も継続し、より一層推進していく必要がある。</p>		9.0	改善し継続
<p>課 題</p> <p>集合型の研修会は、新型コロナウイルス感染の状況を把握しながら、延期したり、規模を縮小したりしての実施となった。今後も感染状況を踏まえた運営の仕方を考えていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績評価	
<p>○人権・同和教育研修会 転入教職員人権・同和教育研修は、特別の事情がない限り転入してきたすべての教職員が参加し、1学期に実施できた。また、各学校においては、年間計画を立てて職員研修を実施した。 ・邑南町教育研究会 人権・同和教育部会 2回 夏季研修会では、具体的な事例をもとにその背景を考える参画型の研修を実施し、人権感覚を高めた。(後期 新型コロナウイルス感染症拡大のため中止) ・邑南町教職員対象研修会 多様性教育ガイドセミナーを夏季休業中に予定をしていたが、新型コロナウイルス感染症対策のため延期し、冬季休業に実施した。</p>		9	

事務事業名	② 実践的な学習の推進		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>どの研修会でも積極的に学ぶ教職員の姿が見られた。</p> <p>研修の成果を授業に生かす学校が見られ、意欲的に学ぶ子どもの姿につながっていた。昨年度同様、学び合い授業づくりの自校の研究に役立てながら、児童・生徒の学習意欲や学力調査結果の向上につながった。</p> <p>学校での学びを家庭につなげることで学習意欲を高め、より深く学習課題を追究した工夫も見られた。</p>		9.0	改善し継続
<p>課題</p> <p>教師力向上のための研修会は、10年間継続して開催している。前年度の内容や参加者の感想などをまとめた研修案内を教職員に配布したり、邑南町教育研究会との連携を深めたりするなど、本研修の意義を事業説明会などや学校訪問などで管理職に伝達し、より多くの教職員が主体的に研修に参加できる工夫が必要である。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○教師力の向上</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学び合い授業の公開と研究協議 <p>令和3年度モデル校3校(高原小 日貫小 羽須美中)は2回開催 モデル校以外の学校は各1回開催 モデル校の実践は、学び合い実践記録集にまとめ、各校に配布し、児童生徒の実態に応じてよさを取り入れることができるようにした。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・情報活用教育講座の実施 <p>図書資料などから必要な情報を引き出したり、まとめたり、表現したりする力を子どもたちにつける手法を学んだ。</p>			9

事務事業名	③ 確かな学力を育む		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業では、新型コロナウイルス感染症拡大感染状況を見極めながら実施した。</p> <p>主な事業の一つである花まる算数教室は、参加した子どもは楽しく学ぶことができた。年度末のアンケートは、ほとんどの子どもが「算数が好きになった、わかるようになった。また参加したい」と回答していた。各学校の学習支援にもつながっている。</p> <p>低学年対象に実施した辞書引き学習会では、意欲的に辞書引きに取り組む子どもの姿が見られた。新型コロナウイルス感染症拡大のため延期して実施したが、2,000枚以上のふせんを貼った子どももおり、学習意欲の向上は達成することができた。</p> <p>学校毎の分析については各学校で分析を行っており、個に応じた指導に役立っている。</p> <p>全国学力学習状況調査・島根県学力調査を実施し、その調査結果から、各校において児童生徒一人ひとりの課題を明確にし、改善の方向性を見出すための分析を行うよう指導した。訪問指導などで各学校に聞き取りを行った結果、各校と</p>		9.3	改善し継続

<p>も分析を踏まえ実態に沿った取組が行われた。</p> <p>定期的に学校司書の連絡会を開催した。各学校での取組みについての情報共有やワークショップを行い、他校の取組みを取り入れたり、新任の学校司書の知識を広げたりすることにつながった。また、県立図書館主催の研修会に参加する事で、新しい考え方を取り入れることができた。</p> <p>子ども笑顔キラキラサポート事業は、学校からの配置要望人数、時間数に対して、調整をして配置を行った。また、支援を必要とする児童生徒について相談があった場合は、すこやか相談会を活用した相談支援チームによる学校訪問を行い、支援方法について検討、助言をした。</p> <p>外国語指導助手(ALT)招致について、令和元年度より ALT2 名体制となり、小学校・中学校をそれぞれの ALT が担当している。令和2年度に新規 ALT1 名が来日し 3 名体制となる予定であったが、新型コロナウイルス感染症の影響により来日ができなかった。</p>		
課 題		
<p>基礎学力の向上・定着及び学習意欲の向上を目指した事業の花まるさんすう教室は新型コロナウイルス感染症の影響で2回中止し、5回の開催となった。登録者は前年度より少し増え、約70名である。「分かるようになった」という児童の意識や指導スタッフから肯定的なことばがけを受け参加者の満足度は高い。</p> <p>学力調査では、各学校で調査結果・分析を踏まえた取組みがされている。教育委員会として、これまでも行って来たように訪問指導などを利用して、読解力向上の取組や各学校の効果的な取組みを町全体へ説明する。</p> <p>図書の廃棄について各学校との共通認識はできているが、邑南町としての廃棄基準の作成が求められる。</p> <p>子ども笑顔キラキラサポート事業は、必要に応じて、児童生徒の実態把握や支援、対応についてすこやか相談会で対応しているが、年々相談件数も増え、比例して支援員の配置人数、時間数ともに要望は増えているが人材不足で要望どおり配置できない状況である。</p> <p>外国語指導助手(ALT)招致について、3名体制となり学校訪問回数を増加することはできたが、打ち合わせ時間の確保などの課題が残っている。訪問時に最大の効果が発揮できるようにしていく必要がある。</p> <p>予算的な課題が多く、各設備が老朽化しており、教材及び設備を活用した授業は、教職員の努力に依存しているところが大きい。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○基礎学力の向上・定着</p> <p>基礎学力向上・定着を図るために、算数や語い学習に重点を置いた事業を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・花まる算数教室 3 地域で 5 回ずつ実施。(年間 7 回ずつの予定であったが、新型コロナウイルス感染拡大のため 2 回中止とした。) ・辞書引き学習会 小学 1・2 年生対象 町内すべての小学校が参加 <p>辞書引き学習を行うことでの語彙数の向上を図るとともに、1年生のうちから辞書に親しませることで学校や家庭でも辞書を活用する習慣を身につけさせた。</p>		10
<p>○学校図書館活用の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に学校司書の連絡会を実施し、各校の取組みについての情報共有や図書館見学を行った。 		9

<ul style="list-style-type: none"> ・学校司書の配置(平成 21 年度から町内全 11 校に 1 名ずつ学校司書を配置) ・県の「学校司書等による学びのサポート事業」を活用し、学校司書の人件費の確保の一助とした。 ・学校図書館を活用した授業において、子供達が自ら調べ、まとめたりプレゼンテーションしたりする事で、情報活用の力が身につけてきている。 ・調べる学習作品展 年 2 回開催 ・学校図書館などを活用した調べる学習作品展の実施 前期 84 点、後期 34 点の出品があった。 	
<p>○笑顔キラキラサポート事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活支援員を小学校 4 校に 6 人配置した。 ・学習支援員を小学校 7 校に 7 人、中学校 3 校に 3 人配置した。 	9
<p>○学力調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国学力量習状況調査4月実施(対象 小6年生 国語・算数 中3年生 国語・数学) 小学校の国語、算数は、県平均とほぼ同等、中学校の国語は、県平均とほぼ同等であったが数学は県平均よりやや低かった。 ・島根県学力調査12月実施(対象:5 年生・6 年生、教科:国語・算数/対象:中学校1・2年、教科:国語・数学・英語)小学校国語は県平均とほぼ同等、算数は、県平均よりやや低かった。中学校国語、英語は県平均とほぼ同等、数学は県平均よりやや低かった。 生活面を含めた邑南町全体の分析を行うとともに、各学校でも分析を行い、日々の授業改善や個に応じた指導に役立てている。算数との相関が強いことがわかり、1校1校に伝えた。 	9
<p>○リーディングスキルテスト(読解力テスト)の実施</p> <p>小学校6年生を対象にWEB上でリーディングスキルテストを実施した。全国学力量習状況調査と読解力テストとの関連を分析すると、算数との相関が強いことが分かった。これらの結果をふまえ、読解力を高める授業モデルを作成し、1校1校に説明するとともに、授業改善の一方向とした。</p>	9
<p>○外国語指導助手招致(小学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際文化への関心を高め、英語と親しむことを目的に配置した。 ・小学校 2名(秋から2名体制) 1人4校/週 1 回授業 ・小学校のみを担当する ALT を 1 名配置した。学校訪問時には教職員・児童とゲームを交えながらコミュニケーションを図るなどして英語に親しむことができた。町内 8 小学校を週 1 回訪問し 5・6 年生では教科化された英語学習を行い他学年では児童と触れ合うことで学習することで国際交流を図った。 	9
<p>○外国語指導助手招致(中学校)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な英会話能力の向上を図るために配置した。 ・中学校 1 名(3年目) 3 校/週 1~2 回授業 中学校のみを担当する ALT を 1 名配置した。訪問回数は週 1~2 回程度だが1日該当の中学校で勤務しているため、授業を行うための打ち合わせ時間の確保や休み時間などに教職員や生徒と触れ合うことができる環境ができ国際交流を行う機会が作れた。 	10
<p>○教育設備の活用</p> <p>電子黒板、各教室に設置したプロジェクター、書画カメラ、スクリーン、教育用パソコンなどの設備を活用した授業の実施(中学校においては、技術の授業での「情報の技</p>	9

<p>術」での実習、その他理科・数学・英語などでの教材の提示を行っている。小学校においては、すべての教科への活用に努めている。社会・理科・総合学習などでの調べ学習に活用している。）</p> <p>令和2年度にGIGAスクール事業により、小学1年生から中学3年生までの児童、生徒に対して、1人1台端末の導入を進め、さらにオンライン授業を進めるための機器についても導入をした。また、町内の11校全てに校内で使用できる校内LAN(Wi-Fi)を整備した。</p> <p>貸出し用ルータの購入や、邑南ケーブルテレビ加入促進のため要綱制定を行い、家庭で持ち帰り学習が出来るようバッグを購入し条件整備も行った。</p> <p>GIGAスクール推進モデル校として石見中、口羽小、阿須那小学校でタブレット活用について取り組みを行った。</p>	
---	--

事務事業名	④ 特別支援教育体制の構築		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>特別支援相談ネットワークは学校や保育所・園に浸透し、相談の場として活用され、小学校、中学校ともに発達検査の事前訪問や通級利用の相談でも利用されている。特別支援学級の新設に伴い、必要に応じてケース会議、授業参観など実施した。保育所(園)と小学校、小学校と中学校が連携し、保護者と情報共有をしながらスムーズな就学となるよう努め、教育課程の編成については浜田教育事務所の特別支援教育支援専任教員に依頼し、相談の場を設けた。特別支援学級の教育課程編成については浜田教育事務所から特別支援教育担当指導主事を招き、特別支援学級教育課程の説明会も実施した。すこやかファイルは必要な児童に適宜配付を行った。</p> <p>通級指導教室では、各学校の児童生徒の状況に応じた指導ができた。</p> <p>教育支援センター(たけのこ学級)の活動では、定期的な学校訪問で実態把握、情報交換を行うことができた。また、町スクールソーシャルワーカー(SSW)や石見養護学校相談支援スタッフと連携し、児童生徒の特性にあった対応ができた。学校と役割分担をしながら、別室登校の児童生徒との関わり、保護者面談を行った。</p> <p>いじめ対応支援事業のQUアンケートでは、各学校で学級づくり、人間関係づくりに活用されている。</p> <p>教育支援委員会は、年2回開催した。幼児・児童・生徒の就学について慎重に協議し、町教育委員会に答申を受けた。</p> <p>特別支援学級(病弱・身体虚弱)を新設した。</p>	9.7	改善し 継続	
	課 題		
<p>相談支援ファイルすこやかについては、特別支援教育コーディネーター連絡会で活用について継続して情報提供を行った。就学前から就労期までの「切れ目のない支援」を行うため、個別の教育支援計画・個別の指導計画の作成方法や必要性について郡特別支援教育コーディネーター等連絡会議(講師:浜田教育事務所特別支援教育担当指導主事、石見養護学校相談支援部)にて共有した。</p> <p>通級指導教室は、各小中学校と情報交換、連携を深め、継続した支援を実施する。</p> <p>教育支援センターでは、不登校(傾向)であった生徒について中学校卒業前</p>			

<p>に、中学校から教育支援センターの情報提供を保護者などに積極的に行ってもらった。必要に応じて在籍高校と情報交換を行うことができた。</p> <p>QU アンケートの結果は、全国・県学力調査とも比較し、授業づくり・学級づくりの資料として十分に活用されるよう教育委員会主催での QU アンケート活用の研修会を実施し、各学校での QU に対する認識を深め、全校での取組みとなる体制の整備が必要である。</p> <p>SSWの活動として、ケース会議、保護者面談、家庭訪問を必要に応じて行っている。</p> <p>教育支援委員会については学校内の支援検討会から町教育支援委員会へのつなぎ、連携について、より一層の充実が図られるよう引き続き周知する。学校と保護者が就学のあり方について合意形成を図ることができるよう学校と適宜情報共有を行い、連携して行く必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○特別支援相談ネットワークの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・邑南町特別支援合同相談会の定期開催を16回、臨時開催を17回の計33回開催した。相談件数:73件 ・特別な支援の必要な子どもの早期発見・早期支援につなぐため、夏の保育所・園巡回訪問を各保育所・園(町内9箇所)を8月中に実施した。 ・特別支援相談ネットワーク総会を開催。 ・特別支援連携協議会は年度末に開催し、令和2年度のふりかえり、令和3年度の計画案について協議した。 		10
<p>○教育支援委員会</p> <p>教育支援委員会の審議会を開催した(審議対象者17名)。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和2年度度審議対象者15名の就学後の検証 ・令和3年度審議対象者17名の実態把握(保育所・園、小、中学校訪問) ・令和3年度審議対象者17名の就学支援についての保護者面談を個別に実施 		10
<p>○通級指導教室</p> <ul style="list-style-type: none"> ・担当職員 瑞穂小:3名 瑞穂中:1名が配置されている。 ・令和3年度新規通級利用者:小学校10(総数36名)、中学校6名(総数15名) 		10
<p>○教育支援センター(たけのこ学級)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・利用者:11名(単発の相談含む) ・延べ利用人数:323人 ・学校巡回:小学校8校、中学校3校を巡回 ・相談支援チームなど関係機関と必要に応じて情報交換ができた。 ・県立石見養護学校と支援の相談など連携を図った。 ・必要に応じて、登校支援、別室登校児童生徒との関わり、保護者面談を実施した。 		9
<p>○スクールソーシャルワーカーの活用</p> <p>スクールソーシャルワーカーを1名配置し、いじめや不登校などの問題に対する教育相談体制を整備した。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・定期的に各小中学校を巡回訪問 ・個別に家庭訪問も実施 ・ケース会議にも参加し、関係機関と連携を図り、問題解決に取り組んだ。 ・令和3年度の相談件数は30件。訪問回数は学校や家庭など含め148回。 		9

<p>○いじめ対応支援事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小中学校で1学期と2学期の2回、アンケートQUを実施し、学級集団の状況を把握・分析していじめ対応の実践につないだ。 ・いじめの重大事態の事案について学校主体のケース会議、保護者会、保護者面談に出席した。 	10
---	----

事務事業名	⑤ 就学環境の充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>スクールバスについて、概ね計画どおり運行できた。</p> <p>就学援助費及び通学助成費の給付、就学時健康診断は、予定どおり実施することができた。</p>			
	課 題	9.8	継続
<p>スクールバス車両については、計画的に順次更新し、利用者の安全輸送を確実にを行うための車両整備が必要である。乗車人数の実績や過去の修繕実績や購入後の経過年数などを総合的に考慮し、車両の再編計画を適宜修正していく。</p> <p>車両数の関係から、本来であればスクールバスで通学したい児童生徒がバスを利用できていない現状がある。</p> <p>就学時健康診断では、転居予定者について現居住地校区の小中学校での健診を案内したため、転居先の校区の小中学校での受診を要望される事例もある。転入予定者や転居予定者について早めに把握し、対応する必要がある。</p>			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○スクールバス運営</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童生徒の通学手段を確保するため、スクールバス10路線(雪田線、宇都井線、戸河内・長田線、下口羽・上田線、高原線、出羽線、市木線、日和線、日貫線、日貫山の内線)を運行し、学校教育活動の支援に努めた。 ・土日などの学校行事の実施により、定期便以外の時間帯にスクールバス運行が必要な場合には、学校の要望に応じて臨時便を運行した。 ・宇都井線をデマンド交通に切替えるように考えたが、保護者への周知期間が短く、結果的に取下げを行った。 		9	
<p>○就学援助費の給付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・要保護、準要保護児童生徒就学援助費の支給 認定者：小学生 90名、中学生 50名 支給額：小学生 6,389 千円、中学生 6,130 千円 支給額には、小学校入学前 7 名、358千円、小学6年(新中学1年)14名、840千円を含む。 ・特別支援就学奨励費の支給 該当者：小学生 8 名、中学生 2 名 支給額：小学生 265 千円、中学生 140 千円 		10	
<p>○通学助成費の給付</p> <ul style="list-style-type: none"> ・通学費助成 該当者：小学生 15 名、中学生 1 名 		10	

支給額:小学生 182 千円、中学生 18 千円	
○就学時健康診断 ・就学時健診:小学校 8 校を会場に 10 月下旬から 11 月に実施 対象者 69 名 実施内容:内科・歯科検診、視力検査、聴力検査、面接	10

施策2 小さな学校の大きな挑戦を支援

～子どもたちの自信を育て、地域に信頼される学校～

事務事業名	① 地域を担う意識の育成		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
各学校で実施形態、内容などは違うが、それぞれ総合的な学習の時間の年間計画にもとづいて、講話や体験が行われていた。 また、キャリア教育については、平成 29 年度より行っている。 地域の特性などを生かした特色ある教育活動を行っている日貫小学校を小規模特別認定校に指定し、令和 2 年度より校区外から就学できる制度を設けた。		9.0	改善し継続
	課題		
校長会や事業説明会などでキャリア学習の実施について依頼や説明をしている。キャリア教育についてはキャリアパスポートの開始により各校での実践を重ねるとともに学期ごとの児童生徒の振り返りを充実・継続することが重要である。			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
○キャリア学習 ・医療講話は、地域医療の講話～口羽小(5・6 年生)阿須那小(5・6年生)・瑞穂小(5 年生)・羽須美中(2年生)、助産師の講話～矢上小(6年)、瑞穂中(2年)、石見中(2 年)、薬剤師の講話～日貫小(4・5・6年生)などで実施している。高原小・市木小・石見東小学校においても、人との出会いを大切にしながらの学習を深めている。町内の全ての学校において児童・生徒一人一人が、キャリアパスポートを活用し、自らの学習状況などを振り返って自己評価をしたり、これからの生き方について考えたりすることを行っている。 ○小規模特別認定校説明会(11月30日) ・保護者0名、日貫地区活性化協議会4名、日貫小学校2名(管理職)、教育委員会2名(教育長、学校教育課長)が参加した。保護者については参加を呼び掛けたが出席者がいなかった。			9

事務事業名	② 地域との共同学習		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
現状の社会情勢を鑑み、おおなんドリームについては映像でのやり取りの中で、新たに地域との意見交換会を設定し、今できうる方法を模索し最大限の学習効果を求め実施した。 今後については、新たな形態を検討していきながら、ふるさと教育の充実を求めていきたい。		10	継続

課 題			
<p>おおなンドリームにおいて、ふるさと教育の充実を図るため、探求的な学習を意識した取り組みをおこなった。学校と地域の協働による課題解決に向けた取り組みについて課題が残った。</p> <p>併せて、このような情勢の中での新しい取り組み形態を模索していきたい。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・年度初めに「ふるさと教育担当者会」を中学校区単位で開き、各校担当者と公民館主事、地域コーディネーター、矢上高校魅力化コーディネーター、学校教育課職員、生涯学習課職員で年度の方針を確認した。 ・各小中学校において、割り当てられた予算の範囲内で地元の人的資源や環境資源を活用し、講演会や体験活動を計画し、実施した。 			10
<p>○おおなンドリーム学びのつどい</p> <p>今年度は新型コロナウイルス感染症の蔓延により、対面での開催を見送った。各学校の発表については、資料提供または事前収録の形を取り学習の成果を残し、さらに、それら学習の成果を地域の方にご覧いただき、学校へ地域からのメッセージという形で同じくその様子を収録し、発表校に提供した。</p>			10
<p>○学校関係者評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内小中学校 11 校で学校関係者評価委員を選任し、各校で年 3 回以上委員会議や委員参観の日を設定し、学校の自己評価結果を踏まえた評価を実施し、町教育委員会に報告された。結果は、保護者などへ公表した。 			10

事務事業名	③ 学校の魅力化		
	総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等
<p>教師力向上事業、学力向上事業、おおなンドリーム学びの集い、事業それぞれの項目で評価済</p> <p>特色ある教育などを推進している小規模校への就学を対象とした小規模特別認定校制度を創設し、日貫小学校を指定校とした。</p> <p>地域の子ども達にどのように育てほしいのか、何を実現していくのかという目標やビジョンを共有し、地域・学校・家庭とが一緒になって取り組むことを目的として、地域の住民や行政、学校(小・中学校)、PTAが主体的・創造的な対話を行いながら、地域と一体となって子供たちを育む「地域とともにある学校」という体制を推進した。</p>		10	継続
課 題			
<p>指定校とした日貫小学校の特色ある教育について共有していただき、少しでも就学者が増えるような取り組みを検討していく必要がある。</p> <p>学校、地域、行政(公民館)がどのように協働しながら取り組むべきなのかを明確にし、「育てたい子ども像」の実現に向けて支援していく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績 評価
<ul style="list-style-type: none"> ・小規模特認校制度説明会 ・令和 2 年度モデル地区による事例発表会を開催、75名参加 			10

施策3 「安全・安心な教育環境づくり」への支援

事務事業名	① 学校設備の整備		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>・計画修繕の実施 新型コロナ対策交付金(令和3年度完成が条件)事業により、小中学校トイレ衛生環境改修工事を計画したが、新型コロナの世界的拡大で複数の製造業が活動規制となり、年度内の製品調達が困難となったため、事業を中止し、令和4年度で実施する予定とした。</p> <p>リース方式によるLED照明更新は、安全基準への適合や単価更正を行ったところ大幅な変更が必要なことや事業効果が見込まれないことが判明したため、事業を中止した。次年度以降、複数年で整備する予定とした。</p> <p>・緊急修繕の実施 令和4年度より特別支援学級やクラス数の増が見込まれる学校に対して教室の確保をするため改修を実施した。</p> <p>・石見中学校改築基本・実施設計 基本設計業務について令和3年6月で完成し、その後実施設計に着手。令和4年度の建物工事着工に向け、準備を整えることが出来た。</p>		9.0	改善し 継続
<p style="text-align: center;">課 題</p> <p>整備が完了した施設以外については老朽化による劣化が著しい場所もあるため、緊急性を要する修繕工事により、応急的修繕を繰り返しているのが現状であるため、平成30年度に策定した学校施設長寿命化計画に基づき、大規模改修や更新対策、一般修繕などの予防保全的改修に転換していきコスト削減を柱とした学校整備を計画的に進めていく必要があると考える。</p>			
<p style="text-align: center;">主な事業内容と実施状況</p>		実績 評価	
<p>○学校施設の整備</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小中学校衛生環境改修工事(新型コロナなどの影響により中止) (高原小学校、瑞穂小学校、矢上小学校、瑞穂中学校)・・・次年度へ延期 ・小中学校LED照明更新リース(事業見直しにより中止) (町内全小中学校の、照明器具)・・・次年度以降へ延期 ・教室改修工事 (日貫小学校特別支援学級教室への空調設置、矢上小学校特別支援学級教室の改修) ・石見中学校改築基本設計業務及び実施設計業務 (株)シーラカンズアンドアソシエイツ)) ・応急措置が必要な個所については、随時修繕を行った。 (羽須美中学校給食エレベーター緊急修繕ほか) 		9	
事務事業名	② 児童生徒の健康安全対策		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>児童生徒の安全対策で急務となるのが通学路の安全確保であり、防犯パトロールと通学路の安全対策の両面から実施していく必要がある。</p>		10	改善し 継続

<p>防犯パトロールは、児童生徒の登下校の安全確保に効果を上げており、新規に青色パトロール隊の隊員になっていただいた方が6人おられた。</p> <p>また、通学路の安全対策を実施するために、町と道路管理者、学校、警察などで組織する「通学路安全推進部会」を活用し、危険箇所の合同点検、対策協議を行い、早期の対策が必要な危険箇所は改善対策を実施した。</p>		
課 題		
<p>通学路安全推進部会において、毎年通学路の危険箇所の抽出や課題の検討、関係部署への働きかけを行い、危険箇所解消を図っているが、未対策箇所の早期改善に向けて取り組みを進めていく必要がある。また、点検を行った箇所、対策を講じた箇所のその後の点検なども必要であり、各関係者で連携をして行う必要がある。</p> <p>現在、子ども安全センターの青パト隊は、各支部で10人前後の隊員がおり、パトロールに従事しているが、近年、隊員の高齢化によりパトロールに従事できる方が減ってきており、パトロールなどの活動の継続が難しくなっている。引続き、新規登録の募集活動に努めたい。今後も、青パト隊登録者が一堂に介して研修を実施し、日頃の活動に対し士気を高めてもらうことが大切であると思う。</p> <p>なお、青パト隊の活動は基本的にボランティアで行っていただいております、謝礼や燃料代について支払うことは予定していない。今後もそのように考えている。</p> <p>児童生徒の健康診断後の結果通知書や保健調査表の様式が学校ごとに異なるため、邑南町で統一し事務の効率化を図りたい。</p> <p>新型コロナウイルス感染防止の観点から通常年では生じないような消耗品の支出、備品の購入要望などの対応について検討していく必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○防犯・安全教育の推進 各学校でそれぞれ登下校時の安全指導、あいさつ運動、通学路の安全点検、避難訓練などの講習(研修)会を開催した。</p>		10
<p>○邑南町子ども安全センター ・地域住民の防犯意識の高揚と安全活動ボランティアの育成を図るための取組を実施した。 ・9月に青パト隊の防犯パトロール講習会を実施した。 ・青色回転灯によるパトロール(年末特別警戒活動など)を行うなど各地域で防犯のための各種活動を実施した。 ・従事者数:80名(町民) ・登録車両台数 80台(内公用車1台)</p>		10
<p>○学校保健安全衛生対策 ・学校保健安全法で定められている定期健診の実施及び修学旅行前健診などを実施した。 ・令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響により実施時期が例年よりも延長されたが、令和3年度は各小中学校や学校医などの協力のもと、学校保健安全法施行規則に規定されている6月30日までにすべての小中学校で適切に定期健康診断を実施できた。〔環境保健公社委託検診(心電図など)、内科検診、耳鼻咽喉科検診、眼科検診、歯科検診〕</p>		10

<p>・学校衛生基準に基づき、学校薬剤師及び養護教諭などと連携してダニアレルゲン検査、照度検査、空気検査を実施し、環境衛生の確保に努めた。</p> <p>○学校医との意見交換会 11月29日に学校医、学校歯科医などと学校保健に関する意見交換会を実施した。</p>	
---	--

事務事業名	③ その他	
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>学校事務共同実施連絡協議会では、事務職員未配置校において、事務の平準化のためグループ内での支援体制を構築し、情報交換共有アプリを活用してのデータのやりとりやグループ会を未配置校で開催するなど負担の少ない方法により、事務処理を行い、学校運営に寄与することができた。奨学金では、年間を通して適切に処理できた。</p> <p>教職員住宅では、必要に応じて速やかに修繕を行い、適切な住宅管理ができた。</p>	10	改善し継続
課 題		
<p>学校事務共同実施は、年々増える事務量に対して、効率の良い方法を探っていく必要が生じている。また、事務職員未配置校への事務支援について、計画的な訪問のほか効率的・効果的な方法を考える必要がある。</p> <p>本町では、東部・西部の2つのグループで活動を行っているが、東部グループ該当校(口羽小・阿須那小・羽須美中・高原小・瑞穂小・瑞穂中)については、経験が浅い職員が半数以上を占めるため、グループ内での指導面に課題がある。そのため、西部グループ該当校の事務職員に東部グループ該当校についての兼職発令を島根県に内申し、発令いただいた。</p> <p>情報交換共有アプリの使い方について、情報みらい創造課職員による教室を開催し、主にグループを横断して情報共有する機能について教職員に学んでいただいた。</p> <p>邑南町奨学金返還に係る滞納者について適切に対応していかなければならない。</p> <p>教職員住宅については、今後必要な住宅戸数や地域の検討、老朽化した住宅を含めた計画的な住宅管理に努める必要がある。</p>		
主な事業内容と実施状況	実績評価	
<p>○学校事務共同実施</p> <p>・学校における働き方改革につながる学校事務部門の充実、強化の推進を図った。</p> <p>・学校事務共同実施連絡協議会で、学校事務職員、町教育委員会や学校管理職との連携や、共同実施会を開くことで文書の整理保管などの事務の効率化を探った。(共同実施会7回、校長会との合同会1回、教頭会との合同会1回、東部グループ会 計12回・西部グループ会 計9回、推進委員会6回)</p> <p>・共同実施だよりを作成し、学校と町教育委員会の間の事務が円滑に行われるようにした。</p> <p>・平成26年度より、11校の内、事務職員未配置校1校という状況になり、これまでどおりの活動を続けることが困難となっている。そのため、西部(石見地域、市木)、東部(市木を除く瑞穂地域、羽須美地域)の2グループに分かれて活動を行い、事務職員未配置校への支援の継続を行った。西部グループ該当校の事務職員に東部グループ該当校についての兼職発令を島根県に内申し発令された。</p>	10	

<p>○呂南町奨学金貸与事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高等学校など、高等専門学校、専修学校、大学校または大学などに在学し、経済的に困窮している者に奨学金を貸与する。 ・令和3年度末時点貸与者2名 ・令和3年度末時点償還対象者10名 ・令和3年度末時点据置期間または償還猶予対象者8名 	10
<p>○教職員住宅</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員住宅の保守・点検を行い、教職員が安心・安全に生活できるように努めた。（羽須美地域8戸、瑞穂地域13戸、石見地域16戸） ・修繕が必要な箇所は随時修繕を行った。 	10

2. 地域を担う人材の育成(社会教育)

～学び合いによる豊かな地域づくり～

施策1 呂南町が推進する人材育成のステップ

～人づくり・地域づくり・町づくりを推進する社会教育～

事務事業名	① 地域とともにある学校づくり		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<p>地域の実情に応じて、学校単位、地域単位で「どんな子どもに育てたいのか」をまとめ、「共有された子ども像」を学校、地域、行政(公民館)で思いを共有することができた。これをもとに、それぞれで思いの具現化に向けた活動に取り組んでいくために、事例発表会を開催した。</p>	10	継続
	<p>課 題</p> <p>学校、地域、行政(公民館)がどのように協働しながら取り組むべきなのかを明確にし、「育てたい子ども像」の実現に向けて支援していく必要がある。</p>		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	<p>○地域とともにある学校づくり</p> <p>「地域とともにある学校づくり」令和2年度モデル地区による事例発表会を開催した。各地域から75名の参加があり、取り組むべき方向性について情報共有する機会をもつことができた。</p>		10

事務事業名	② 地域学校		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	<p>公民館ごとに地域の魅力を発見・再認識できるよう意識し事業を展開した。地域学校交流会は先進事例を見て学ぶ事で現状の課題やこれからの方向性を見出すため3月に計画していたが、地域学校は安全対策を講じて規模を縮小して開催した。</p>	9.0	改善し継続
	<p>課 題</p> <p>地域学校の目的を再確認し、ふるさと教育を効果的に実施できるようにするため、親世代をはじめ地域によって参加の薄い世代を巻き込んで参加者数や地域の協力者を増やすことが必要である。</p>		

主な事業内容と実施状況	実績 評価
<p>○研修会の開催 継続して地域学校の取組を実施してきた。今年度は地域としてその取組の延長上として「地域とともにある学校づくり」「学校とともにある地域づくり」を学校とともに考察しさらなる充実を図るための研修会を実施した。 「将来の隣人」を育成するために学校、地域のそれぞれの思いを共有する場、再認識する場を設定することで、当初の目的でもある「地域総がかり」で子どもを育成する推進体制の再構築の場として本研修会を位置づけた。</p>	8
<p>○地域学校の開設及び実施 ・郷土愛を育むために公民館単位で行った。 日貫・・そば体験。 日和・・鳥の巣箱作り、火おこし体験 井原・・世代間交流レクリエーション(竹とんぼ、みそ玉作り)、学校と連携しての雲井の里 PR 事業 田所・・木工教室 阿須那・・川の生き物調査 口羽・・通学合宿(新型コロナウイルス感染症の状況を協議し中止) 布施・・植樹 中野・・オリパラ競技体験、餅つき 市木・・川遊び 高原・・キャンプ教育 出羽・・わんぱく学校(4回開催、2回中止) 矢上・・川遊び、山登り、魚つり</p>	10

事務事業名		③ 家庭教育	
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>子育て関係団体を含め社協、各地域プロジェクトなどとの有機的な連携のもと、地域総がかりで子育てを行うという土壌づくりを意識した取り組みである「わくわくフェスタ」プロジェクト会議では、新型コロナウイルス感染拡大防止の観点より中止としたが、わくわくフェスタ PR 動画を作成した。 「ミニミニ外国」実行委員会会議では、コロナ禍でもできることはないかを検討協議しながら、地域スタッフで内容を検討しながら開催し、地域で子育てを行う意識を醸成した。</p>		9.8	改善し 継続
<p>課 題 今後も、イベントの仕方について考える必要がある。各小中学校の研修会、子育てイベントを利用し、保護者同士の連携や繋がりを検討していきたい。親学ファシリテーターについては、修了者のスキルアップやフォローの場の提供を検討し、実践できる場を考えたい。</p>			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
<p>○家庭教育の支援 今年度は「活動の場の提供(親学ファシリテーターの周知)」や、「親学ファシリテータ</p>		10	

<p>ーフォローアップ研修」を計画し、保育所所長会や PTA 連合会に情報提供を行った。 新型コロナウイルス感染や、まん延防止措置を受け、フォローアップ研修は動画配信で行うようにした。</p>	
<p>○子育て講演会の開催 ・親子で一緒にふれあいながら体を動かすことをテーマにしたイベントを企画した。社会教育委員の会、スポーツ推進委員が中心となり「親子で逃走中おおなん鬼ごっこパージョン」を午前午後の 2 回実施した。「親子で学ぶSDGs」を企画し、小中学生の親子対象に行った。</p>	10
<p>○子育てに関するネットワークの構築 ・子育てに関する各種団体及び関係機関の有機的な連携を図り、それぞれの立場での価値観の基、「地域総がかり」を念頭に置いた、わくわくフェスタプロジェクト会議を開催した。イベントは中止とし、「わくわくフェスタPR動画」を作成した。関係者で集まり、コロナ渦でも何かできないかを協議することで、このプロジェクトの意義とは何なのか共通理解を持つ場となった。</p>	10
<p>○思春期子育て講座の開催 ・「性・命・人権教育講演会」を中学生とその保護者・教職員を対象に保健課、学校と連携し実施した。命、自分の大切さを考え、相手へ思いやりの気持ちをもつことの大切さを学んだ。新型コロナ対策のため、2 会場で同一内容の講座を実施した。</p>	10
<p>○自然教育体験事業の推進 ・新型コロナウイルス感染拡大防止、首都圏でのまん延防止措置を受け、「モンベル」本社を招いての学習機会の提供はできなかったが、公民館事業などでテントやタープを活用し、自然体験の促進を図った。</p>	9

事務事業名	④ 青少年教育		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>地域素材(ひと、もの、こと)を生かした体験活動を実施してきた。 ふるさとを知り、誇りに思い、大好きな地域の将来を見据え、自分の未来を考えるとというストーリー性のある取組みができた。</p>		10	継続
<p>課 題</p> <p>地域の思い、願いをどのように子どもたちに伝え、そして残していくのかというシステムの構築を発展させ、親世代も巻き込んでいけるようなプログラムの開発が求められる。 また、「地域学校」の中で地域の豊かな社会資源を活用した事業などができないか引き続き検討していく。株式会社モンベルとの協定を生かし、「生き抜いていく力の育成や、防災意識の向上となるような事業を展開する。</p>			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○放課後子ども教室(放課後子ども総合プラン) ・公民館が主催するもの、児童クラブとの連携のもと実施するものなど、関係機関との連携が充実したことで地域ボランティアの協力を得て体験活動を中心に18回開催した。</p>		10	
<p>○プレーパーク事業(地域学校) ・地域学校については、各公民館において、地域素材を生かした体験活動を中心に実</p>		10	

<p>施している。株式会社モンベルとの包括的連携協定を結んだことで、公民館事業でリーダー研修を行い、テントを設営、魚のつかみ取り、火おこしなど自然体験活動をより活発に行うことができた。</p>	
--	--

事務事業名	⑤ 成人教育		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>時代背景や学習ニーズを把握しながら公民館と連携し、成人教育として重点的に取り組むべきテーマを幅広く学習するための「町民大学」を4回企画した講師が来県できなくとも実施できるように、ZOOMを使用し、少しでも多くの町民の方々が聴講できるようにした。</p>		9.0	改善し継続
<p>課題</p> <p>町民の要求課題を把握できる場の設定や体制の整備が必要である。また、今後もコロナ禍でも開催できる方法を検討し、計画通り実施できるようにする必要がある。周知(広報)の仕方について、多くの方に参加していただけるように、引き続き早めにチラシなど配布し、関係団体やグループにも周知をしていく必要がある。</p>			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○邑南町民大学の開催 第1講 「邑南町人権講演会」(111名) 第2講 「バリアフリー研修」(35名) 第3講 「島根大学 松本教授によるSDGsを知ろう！」(18名) 第4講 「社会教育フォーラムin邑南」(130名)</p>			9

事務事業名	⑥ ボランティア活動の機会の充実		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>新型コロナウイルスまん延防止等重点措置や、休校の影響により、学校へ地域の方が入ることができない状況が続いたが、学校支援からのボランティア育成について地域コーディネーターに積極的に活動してもらい、学校支援を中心とした「応援団」の増員・設置に努めた。地域の方々を巻き込むことができています。</p>		10	継続
<p>課題</p> <p>地域と子どもたちが繋がることができる事業を、公民館、学校でつくることにより、関われる場を多く作る必要がある。学校支援ボランティア・町主催イベントや地域行事などで募集するボランティアなどに、町民が積極的に参加しようとする意識変容ができる仕掛けを検討し、更にボランティアに参加する人を増やすことが必要。</p>			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○ボランティアの活動支援 ・地域の資源を活用した人材育成のためのボランティア活動、研修機会や情報の提供を行い、地域コーディネーターへも情報提供を行った。また、安心して活動してもらえ</p>			10

よう保険加入などの支援を行った。	
○人材バンクの整備(学習支援の視点から) ・公民館を拠点に活動している各種団体などからの支援、学校支援ボランティアの情報など共有し、新たなボランティアを探したところ、ボランティア登録者数が 258 名から 290 名となった。必要に応じて地域活動を支援した。地域コーディネーターの協力の下、学校ボランティア名簿を整備している。	10

事務事業名	⑦ 学習支援者の確保と育成		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
町内にある自主的なサークルなど多くの団体・グループに、必要な研修の場や講演会などの案内を公民館に協力してもらい積極的に周知することができた。社会教育主事講習6名受講し、うち5名が修了することができた。		9.5	改善し継続
課 題			
各種少年団体指導者(登録指導者含む)の研修などのさらなる参加を促すための情報提供や周知が必要である。 社会教育主事研修については、様々な事情で参加できない公民館主事のために、研修に参加しやすい環境を整備し積極的に受講できるようにする。			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
○少年団体指導者の育成 ・町民大学の案内、スポーツ少年団指導者講習会の案内、こども会や地域学校関係者、青少年育成邑南町民会議委員に社会教育フォーラム IN 邑南の案内を行い、活動を支える支援者、指導者の研修の場となった。		9	
○社会教育主事の育成 ・社会教育の指導者養成のため、公民館主事6名が社会教育主事研修を分割受講し、資質向上に努めた。5 名が修了し、1名はB講習2単位以上修了した。新型コロナウイルスまん延防止等重点措置期間中で、ライブ配信(同時双方向性)であったが、受講しやすい環境での資格取得は人材育成として主事のやる気と意欲を伸ばす大きな成果となっている。現在、社会教育士 13 名、社会教育主事 11 名。		10	

事務事業名	⑧ 団体・グループの育成・支援		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
子ども会育成会の支援について、保険加入促進や町民大学・県子ども会連合会からの研修案内など、学習機会についての情報提供や各団体の年間活動の把握など緊密な連携による支援体制の構築に努めることができた。		10	継続
課 題			
自主的なサークルなど多くの団体、グループが活動している。地域にある後継者不足などの課題に気づき、その解決課題に取り組める人づくりのため、地域に密着している公民館と連携し、研修など企画していく必要がある。			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
○社会教育関係団体などの育成支援		10	

・町内の社会教育関係団体に、研修や講演会などの案内を行った。公民館や元気館のチラシも配布し、情報提供を行った。	
○子ども会育成会の支援 ・町内の子ども会育成会へ助成金、学習機会についての情報提供と保険加入促進を行った。	10

事務事業名	⑨ 学習情報の提供		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
本町広報誌の連載、教育委員会及び公民館だよりなど、紙媒体での情報提供のほか、公民館だよりは邑南町ホームページでも閲覧できるようにしており、より広範囲において情報の共有ができた。		9.5	改善し継続
課 題			
毎月発行している公民館だよりはホームページに掲載しているが、各公民館で開催する地域課題の解決のための講座や、社会情勢を鑑み取り組んだ内容など、情報の公開に工夫が必要である。			
	主な事業内容と実施状況		実績評価
○広報・啓発活動の充実 ・町広報誌・教育委員会だより・公民館だより・町ホームページ・ケーブルテレビや公民館まつりなどのイベントでの呼びかけにより、生涯学習活動の普及、啓発に努めた。 ・各地域の情報が全町はもとより町外にも伝わるよう、各機関が連携した情報提供に努めた。 ケーブルテレビと連携し課題解決用の学びを情報番組としてシリーズで制作した。			10
○情報提供資料の充実 ・公共施設に充実した情報提供資料を備えた。			9

施策2 2020東京パラリンピック合宿招致

～ユニバーサルな意識を確実に後世に残すために～

事務事業名	①東京パラリンピック合宿招致		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
新型コロナウイルス感染症の影響により1年延期となった東京パラリンピックが開催された。フィンランド共和国ゴールボールチームの事前合宿招致は出場権や新型コロナウイルス感染症の影響のため実現することはできなかったが、東京パラリンピックの採火式をはじめ、ゴールボール競技の他自治体との交流やバリアフリーマップの作成など、様々な制限がある中でも実施できることを工夫して行うことができた。		9.0	改善し継続
課 題			
オリンピック・パラリンピックが閉会し、今後は5つのレガシー(ユニバーサル、スポーツ、カルチャー、ヒューマン、インバウンド)の最大化の取組みが重要課題である。共生社会実現のためにこれまでの活動やフィンランド共和国との交流を継続しつつ、持続可能な取組ができるための仕組みを構築していくことに努める。			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
<p>○ユニバーサル(だれにでも優しいひと、もの、こと)の推進 誰もが幸せと感じるまちづくりの推進として、障がい者競技であるゴールボール体験会を町内だけではなく他自治体にも出向き実施することで、様々な方に体験していただいた。参加者は視覚障がいの疑似体験を通して、おのおのに気づきがあり、障がいの有無によらない共生社会の実現に向けての考えを持ち、今後の行動につなげていくきっかけを作ることができた。また、実際に町内をまち歩きし作成したバリアフリーマップを町内各公民館や周辺施設へ配布をし、共生社会実現のための機運が高まる取組を行った。</p>	10
<p>○スポーツの推進 日本のトップアスリートの方を招へいし、講演会を行うことはできなかったが、競技であるゴールボールやフィンランドの軽スポーツであるモルックの体験会を学校や公民館などの施設で14回行った。また、町内スポーツ推進委員と協力し町外へも邑南町の取組について周知を図った。</p>	9
<p>○カルチャー(文化の向上) 今年度についてはフィンランド共和国ゴールボールチームの受入れやフィンランド共和国交流派遣事業を計画していたが新型コロナウイルスの影響により延期・中止となった。人と人の行き来による文化交流を目指していたが実施することができなかった。オンラインを利用しての学校間交流を計画したが、日程調整などの都合が付かず実現できなかった。</p>	8
<p>○ヒューマン(ふるさとを愛する人の育成) 今年度はフィンランド共和国交流派遣事業について新型コロナウイルスの影響により中止となった。しかし、町民の方にフィンランドについて知ってもらうことを目的として、町内幼児を対象にフィンランドにいるサンタクロスとZoomを通して交流を行った。東京パラリンピック終了後もフィンランドとの繋がりを念頭におき実施できた。</p>	9
<p>○インバウンド(外国人が本町を訪れる旅行) ユニバーサルな視点での環境整備に努めることを考えたバリアフリーマップを作成した。作成にあたって実際に住民の方に町内をまち歩きしていただき、危険ヵ所などを確認した上で「何がバリアになっているのか」を調査した。完成したバリアフリーマップは公民館などの施設に配布し、町民の方だけではなく海外の方も利用していただけるように取組んでいく。</p>	9

施策3 「学び」と「交流」で繋がる公民館事業

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	① 公民館の整備・充実		
総合点検・評価		総合 評価	継続、 廃止等
<p>邑南づくり教育計画や邑南町の未来を創造する公民館などをもとに12公民館ごとに年間計画を作成し活動推進委員協議会で承認してもらい、コロナ禍の状況を考えながら公民館活動を展開した。活動を見える化し地域内外へ知ってもらうことで、画期的な公民館運営に繋がった。</p>		9.3	改善し 継続
課 題			
<p>各公民館ホームページの更新や公民館報による定期的な広報を行う。必要に応じてその他の発信の仕方も検討する必要がある。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
<p>○公民館活動の推進 各地域の住民の要求と課題を把握するため、活動推進協議会を年数回開催し年間活動計画の策定や、事業計画を行った。(全公民館)</p>	10
<p>○地域づくりへの支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動公民館として4自治会へ公民館職員が出向き各サロンごとに「SDGs に関する学習会」「椅子ヨガ」などを継続的に行い、地域とのつながり強化を図った。(阿須那公) ・いばら MIRAI クラブとともに「井原道場」を年 5 回実施し、これからの井原地区のあり方を地区民で考える学習を行った。(井原公) ・地域とともにある学校づくりの取り組みを実施した。(矢上公、井原公、中野公、日和公、日貫公、市木公、高原公、布施公) ・中野地区別戦略会長に活動推進協議会に出席してもらい、地区別戦略事業の計画や加茂の春市フリーマーケット開催に向けた情報共有などを行った。(中野公) ・地区別戦略どがあずしょう会と連携して、地域のお宝である二ツ山整備や木を使った特産品開発を推進した。(田所公) ・地区別戦略発展事業で企画したバスケットコートの整備に協力した。(日和公) ・地区別戦略と共催して「ワイワイ子育ての会」行い、小さな子どものいる家庭同士のつながりづくりを実施した。(布施公) ・矢上地区戦略事業協議会と共同で、キャンプ講座、スタンプラリー、ボランティア清掃、イルミネーションなどを実施した。(矢上公) 	9
<p>○生涯学習情報の提供</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公民館だよりを毎月発行し、町のホームページに掲載している公民館だよりも毎月更新した。そのほかにも新聞やケーブルテレビなどへの情報提供を行い、公民館行事や様々な情報発信を行った。(全公民館) ・「学び戦隊コウミンカンジャー」の取り組みを通し、コロナ禍の中で公民館と地域住民が疎遠にならないために、ケーブルでの放映や出前講座など積極的に社会教育推進の取り組みを続けた。(町公連協) ・町民大学や講演会などの内容に合う図書の展示に努め年間を通じて作品の展示に努めた。(中野公) ・出張おおなんBizによりしごとづくりセンターの業務や相談について情報共有した。(布施公) 	9

事務事業名	② 健康・福祉に関する学習		
総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等	
保健課と連携してウォーキングや認知症予防教室など、どちらにも声かけを行い様々なスポーツを楽しんでもらい、健康づくりや交流を図った。	9.0	改善し 継続	
課 題			
当日の運営スタッフが充分でないので健康サポートリーダーを活かすなど保健課と協議し、より安全性を考えていく。			
主な事業内容と実施状況	実績 評価		
○健康増進事業の推進	9		

<ul style="list-style-type: none"> ・健康づくりの一環として健康ウォーキングを、保健課と共催で実施した。(出羽公) ・移動公民館事業「椅子ヨガ」を実施。(阿須那公) ・運動指導士や保健師との連携も図り、運動教室を実施。(井原公、市木公、中野公、田所公、日貫公、日和公、布施公) ・桜が開花する3月に、地域の魅力発見をテーマに地域のお宝である宗林寺をめぐるウォーキングを保健課に協力してもらい実施。健康づくりと地域学習のきっかけになった。(口羽公) ・認知症予防教室を月1回程度の頻度で行った。保健課とも連携した(井原公、出羽公、口羽公、市木公、田所公) ・健康づくり講演会を実施。(日貫公、日和公) ・グラウンドゴルフ大会を2回、ペタンク大会を1回、ゲートボール大会を1回実施し、スポーツが楽しめる環境づくりを推進した。(日和公) ・毎月3B体操を開催し参加者の健康増進を図った。(矢上公) 	
--	--

事務事業名	③ 多様な分野の学習の場の提供	
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
<p>邑南づくり教育計画や邑南の未来を創造する公民館を基に各公民館の年間計画をしっかりと立て公民館運営ができた。地域の方のデジタル化への対応・フォローや今まで関わりの少なかった世代へのアプローチなどに力を入れた。</p> <p>課題</p> <p>引き続き幅広い世代とのつながりを意識し、公民館に関わる人を増やしていく。</p>	8.9	改善し継続
主な事業内容と実施状況		実績評価
<p>○男女共同参画の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・男女共同参画に関するパネル展を開催した。(出羽公) ・「大人のアフターセブン教室」を6回開催。男女問わず若者世代に参加してもらえた。また、講師や参加者を女性向けを意識し、女性の方が参加しやすい仕組みを作り、憩いの場にもなった。(井原公) ・女性セミナーを毎月1回開催し、女性リーダーの育成を推進した。(田所公) 		8
<p>○平和教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「歩こう広島から」は新型コロナウイルス感染症の影響で中止としたが、平和学習として広島平和記念資料館からパネルをお借りして、各公民館巡回方式でロビーに展示した。(町公連協) ・語り部の高齢化が進む中、初めて被爆体験伝承者の派遣を要請し新たな視点で講演してもらった。(町公連協) ・映画「おかあさんの被爆ピアノ」上映会の実施。(阿須那公、口羽公) ・映画「硫黄島」上映会の実施(口羽公) ・夏休みに児童クラブを対象に平和学習会を開催した。(田所公) 		10
<p>○人権教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人権研修会として、町内12公民館エリアを実際に地域内の方に車いすや目隠しなどで移動してもらい、日常生活の中で、どのようなところにバリアがあるのか体験してもらい、全エリアでバリアフリーマップを作成した。(全公民館) 		8

<ul style="list-style-type: none"> ・人権研修会として、ボッチャの体験会を開催した。(出羽公) ・スマホ・SNS 講座と合わせて、新型コロナウイルス感染者へのインターネットや SNS での誹謗中傷問題を紹介した。(井原公) ・人権講演会「自分を大切に、人を大切に～自尊感情を育むために」を開催し、地元の方と教職員の方が一緒に学んだ。(口羽公) ・運動教室の中で人権研修を開催した。(市木公) ・市木地内の一人暮らしの高齢者や障がい者の方に人権グッズを配布した。(市木公) ・公民館まつりにて人権パネルの展示を行った。(中野公) ・瑞穂中学校と共催でデジタル機器を取り巻く疑問や不安について研修会を行った。(田所公) ・小学生対象にあいサポート研修を実施。(日貫公) ・「災害と人権」と題し学習会を実施。公民館にも関連する避難所運営時の人権配慮などについて学んだ。(日和公) ・東京オリンピックの聖火リレーのトーチとユニフォームを各公民館巡回方式でロビーに展示した。(全公民館) 	
<p>○環境教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・環境教育として、瑞穂地域内の数か所の川の水質調査を実施した。(出羽公) ・瑞穂地域5館の共催で、春と秋に自然観察会を1回ずつ計画、悪天候の影響により1回の実施となった。(出羽公、市木公、高原公、布施公、田所公) ・阿須那小学校児童対象「川の生き物教室」「故郷の自然観察」実施。(阿須那公) ・SDGsの研修を行い、環境について自分たちができることの学習を行った。(井原公、中野公、矢上公、日和公、日貫公) ・稲作体験(事前学習、田植え、稲刈り)、田んぼの生き物調査(2回)、東明寺山登山(事前学習、登山)を地域団体と協力して開催した。(井原公、中野公) ・口羽地域学習会で「長田川のホタルの秘密」を開催し、ホタル舞う口羽地域の素晴らしさと環境を守る必要性を伝えた。(口羽公) ・地区別戦略どがあずしょう会と連携して、地域のお宝である二ツ山整備を行った。整備の延長で朝日や雲海、初日の出を拝むイベントを行い、地域の魅力を再発見することができた。(田所公) ・郷土館で開催された公民館お宝展を見学し、各公民館のお宝の話を聞いて学んだ。(日貫公、布施公) ・自然体験の企画「森の学校」を3回実施した。(矢上公、日和公) ・公民館周辺の自然素材を使った「箱庭教室」を1回実施した。(日和公) ・ふるさと学習のメニューとして、ハンザケ自然館と協力して地区内のオオサンショウウオ観察会を実施した。(日和公) ・キャンプを通じて子どもの生きる力を養う講座を開催した。(高原公) 	8
<p>○高齢者学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・移動公民館事業として各地域でサロンに出向き「ボッチャ体験、朗読劇、椅子ヨガ、SDGs ブレスレット」など少人数でできる様々な講座を開催した。(阿須那公) ・認知症予防教室を月1回程度の頻度で行った。保健課とも連携した(井原公、出羽公、口羽公、市木公、田所公) ・高齢者と子ども達を対象にした多世代交流事業である「わくふれレク」を3回実施した。令和3年度は、緑風園、井原福寿会、井原婦人会と共催で行い、ミュージックケア(音楽療法)、竹とんぼづくり、みそ玉づくりを行った。(井原公) 	9

<ul style="list-style-type: none"> ・健康増進、体力向上のためグランドゴルフを実施。(口羽公、市木公) ・健康増進を目的に3B体操教室や交流を目的に切り絵教室、フラワーアレンジメント教室、パステルアート教室などを行った。(中野公) ・交通安全教室、特殊詐欺講演会、折り紙教室を実施。(日貫公) 	
<p>○成人学級の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出羽ひな街道に向けての飾り付けの作成についてもち花作り教室と竹細工教室を開催し、もち花や竹細工を作成し、出羽ひな街道実施時に展示した。(出羽公) ・仕事や子育てなどで日中、公民館活動に参加できない層に対して19時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を6回開催した。今年度はヨガやバランスボール、お皿の絵付けなどの内容で実施、平均約20名の参加があった。(井原公) ・パソコン教室を月2回の頻度で実施し、出納簿や年賀状の作成などを行った。(井原公) ・KDDI認定講師によるスマホ講座を開催。(口羽公) ・成人学級の会議を4回開催、菊芋栽培を実施、公民館まつりで田植え囃子も披露した。(市木公) ・交流を目的に切り絵教室、フラワーアレンジメント教室、パステルアート教室などを行った。(中野公) 	8
<p>○現代的課題講座</p> <ul style="list-style-type: none"> ・スマホ教室などを実施。(出羽公、阿須那公、市木公、中野公、日貫公、日和公、井原公) ・「地域防災教室」を地区社協、自治会、防災士協議会と連携して実施。(阿須那公) ・ペットの飼育問題に対して、「犬の学校」という事業を実施し、犬のしつけの指導教室を行った。(井原公) ・夫婦共働きなどにより日中に公民館活動に参加できない子育て世代に向け19時以降から開催する「大人のアフターセブン教室」を6回開催し、子育て層の参加を促した。(井原公) ・活動推進協議会主催の出前講座、消費者問題センターの講座を開催した。(口羽公) ・LINE公式アカウントを作成し、地域内の方に知ってもらいたい情報などを発信。(出羽公) ・郷土料理づくりを開催。(日貫公) ・マイナンバーカードの申請方法を個々に対応した。(布施公) 	8
<p>○ふるさと教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・12公民館地域学校として体験活動を通してふるさとの良さを学んだ。(リーダー研修1回) ・市木公民館では小学生を対象に地域と連携し市木のお宝の伝承としてふるさと市木探検隊を行った。 ・出羽・田所公民館では地域のお宝を巡るふるさと探検隊を実施した。 ・阿須那では歴史を学ぶ講演会「阿須波の流れ」をシリーズで全3講開催した。 	10
<p>○地域力醸成プログラム推進事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ふるさと市木探検隊を行った。ふるさと学芸員が地域のお宝について市木小学校児童へ教えた。(市木公) ・ふるさと学芸塾を開催したことでふるさと学芸員の養成も可能となった。(市木公) ・口羽地域学習会を地域の方を講師にお願いし、小学生と地元の方と一緒に学んだ。(口羽公) ・口羽通良について、広島大学名誉教授岸田裕之氏にお願いし、「口羽氏の歴史と遺産の継承」と題し、地域の遺産をどう伝えて行くか学んだ。(口羽公) 	10

<p>・お宝マップのWeb活用に取り組み、昨年度までに作成したお宝マップをスマホなどで見ることができる様にした。(町公連協)</p>	
<p>○高校生を対象とした講座の開催 ・矢上高校 2 年生の「総合的な探求の時間」に生徒達と一緒に地域内の課題解決に向けた取り組みを支援した。(出羽公、井原公、矢上公) ・養護学校と連携し、石見マルシェを開催。(口羽公) ・春から社会に巣立つ矢上高校3年生、石見養護学校高等部3年生の生徒たちに、新しい世界へ羽ばたくための講座を開催。今年のテーマは①地元企業に就職している若者のトークセッション②今後、一人暮らしするにあたって必要な知識や注意点などの動画を作成し、学校で上映。矢上高校や石見養護学校以外の生徒も多く、矢上高校や石見養護学校以外の生徒には郵送で QR コードを送付し情報提供した。(町公連協)</p>	10
<p>○館々交流の推進 ・瑞穂地域 5 館で自然観察会を実施することにより、瑞穂地域内の利用者同士の交流を図った。(出羽公、高原公、布施公、市木公、田所公) ・瑞穂小学校の生徒を対象に「ふるさと探検隊」事業を共催。(出羽公、田所公) ・映画「おかあさんの被爆ピアノ」上映会を阿須那公、口羽公で共催。(阿須那公、口羽公) ・郷土館においてそれぞれの公民館のお宝を展示。(全公民館) ・高原の化石研究会に高原公民館を通じて繋いでもらい化石発掘体験を行った。(中野公、高原公) ・自然体験の企画「森の学校」を3回実施した。(矢上公、日和公) ・布施の方を講師に阿須那公民館と合同でカズラを使ったリースづくりを行った。(布施公、阿須那公)</p>	9
<p>○女性リーダーの育成 ・「大人のアフターセブン教室」を 6 回開催。講師選定などで女性向けを意識し、女性の方が参加しやすい仕組みを作り、憩いの場にもなった。(井原公) ・女性セミナーを毎月 1 回開催し、女性リーダーの育成を推進した。(田所公) ・おおなんペンギンプロジェクトチームとして年代や職種が様々な22名の女性たちが女性の活躍ができる環境づくりを応援することと仲間づくりを目標として「お互いが支え合う場づくり」の設定をめざした。マルシェグループと学び・集うグループに分かれ、マルシェチームは3月に行われた社会教育フォーラムで出店のお手伝いや活動の PR をし、学び・集うグループは「町の保健室」についての事前学習を行った。その成果は社会教育フォーラムで発表し、活動の輪を広げた。「やらされ感なく繋がって楽しい、動いてなお楽しい」を理念に将来的には公民館とも連携し、集う場のマップづくりや生理や性教育について親子で学べる場所づくりを学校教育とも連携して行っていきたい。</p>	9

事務事業名	④ 学習成果発表の場の充実		
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等	
<p>社会教育の一年の集大成としての位置づけで社会教育フォーラムに取り組んでいる。参加者が130名あった。コロナ禍で各種サークルの発表の場が減る中で、展示会などを積極的に実施し、モチベーションの維持につながった。</p>	9.3	継続	
課 題			
<p>社会教育フォーラムを計画的・有効的に実施し、公民館と関わってくれる方の掘り起こしにつなげ、地域全体で取り組んでいく力を見出す必要がある。</p>			

主な事業内容と実施状況	実績 評価
○公民館まつり・文化展の開催 ・公民館における各種サークル学習活動の成果発表の場として、展示会を開催した。サークルで制作したものを展示するスペースを作り、来館者に楽しんでもらえるよう工夫した。(全公民館) ・ビックひな祭り文化展を開催。(市木公) ・公民館まつりが中止となったため発表団体はケーブルテレビを通じて発表することができた。(出羽公、田所公、矢上公)	10
○教室・サークルの支援 公民館だよりなどで教室のPR、サークル紹介を行った。(全公民館)	9
○おおなんフォーラム～社会教育の集い～ 「公民館をどう実践してゆくのか」というテーマで実施。 老若男女や地域が「ごちゃまぜ」となって活動していくことや、地域住民が「当事者意識」を持って自らの手で地域を作っていく事の必要性について学びを深めた。	9

事務事業名	⑤ 相談窓口			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
邑南町公民館連絡協議会の活動は多くの公民館が関わるので単館で行う事業にもつながり、幅広い取り組みとなった。地域内の方のデジタル化への対応に向けた事業も実施できた。			9.5	改善し 継続
課 題				
相談内容が多岐に分かれているので様々な知識や情報の習得が必要とされる。デジタル化への相談窓口としての機能も充実させていく必要がある。				
主な事業内容と実施状況			実績 評価	
○相談窓口の充実 ・町民の学習に関する相談に対して教育委員会・公民館で指導・助言を行い、学習意欲の高揚と人材育成を図り、また、その他の相談についても他機関への取り継ぎを行った。(全公民館) ・スマホの使い方なども含めデジタル機器など各種情報提供や相談に応じた。(全公民館)			10	
○広域での連携強化 ・町公連事業8回 ・郡公連事業1回			9	

施策4 図書館教育の充実

～魅力ある地域を支える人材の育成～

事務事業名	① 図書館の整備・充実			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
「第3次邑南町子ども読書活動推進計画」に基づき、読書ボランティアの方と共に感染対策を取りながら、図書館でのおはなし会を実施した。また、学校、保			9.8	改善し 継続

<p>育所などにおはなしを届けることができた。</p> <p>図書の新規購入は利用者からのリクエストや現代のニーズに合わせ蔵書構成を考えながら行っている。また、相互貸借、特別貸出を活用し利用者の要望に応えることができた。Web 予約の件数は2年前に比べ約4倍近く増えている。郷土資料などの登録作業は今後も継続しておこなう。</p>		
課 題		
<p>子どもたちを取り巻く環境の変化に対応し、親子読書普及を今後も進めていく。児童への貸出数が減少傾向にあることから、読書内容を深めるための手だてを学校司書と連携し進めていく必要がある。中断している行事(わらべうた、三館めぐりなど)開催していきたい。郷土資料の収集、登録、保存に力を入れ、住民への資料提供が迅速にできるようにする。</p>		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○新規図書の購入</p> <p>・蔵書構成、利用者のニーズを考慮し資料の充実に努めた。調べ学習資料の買い替えなど。新規購入 児童書 576 冊、一般書 784 冊</p> <p>コロナ禍により家庭で過ごす時間が増加し、一般書の需要が高まった。</p>	10	
<p>○県立図書館特別貸出の活用</p> <p>・石見地区、羽須美地区は公民館に県立図書館の図書を設置し住民の読書に供している。</p> <p>・借受冊数 3,000 冊 ・相互貸借(他の図書館より資料の借受)888 件</p>	10	
<p>○読書普及活動の推進</p> <p>・感性やコミュニケーション能力を育み、子どもの生活を豊かにすることを目的とし、保育所・園、小学校、からの要望に対し、読書ボランティアとの調整を行った。</p> <p>・公民館と連携し、講演会などに関連書籍を展示し、成人への読書啓発を行った。(2回)</p> <p>・個人貸出 36,834 冊(目標値 37,000 冊)は目標値に達していない。理由としては、児童書の貸出しが減少傾向にある。団体 7,070 冊(目標値 10,000 冊)。学校図書館、保育所などの福祉施設(感染防止のため来館の減少)への貸出が減少している。</p> <p>・ブックスタート 0 歳児 61 人、1 歳 6 カ月児 47 人、3 歳児 53 人へ絵本を手渡し、親子読書の大切さを伝えた。</p> <p>・子どもたちへ読書の関心を高めるために、夜のおはなし会(1 回)を実施した。また、毎月の展示に工夫をこらした。読書ボランティアの協力により、大人のためのお話会(2回)、本館、石見分館で感染状況を踏まえた上でおはなし会を実施した。</p> <p>・コロナ禍で臨時休館(1 週間)となったが、予約の資料を窓口で渡すなどして利用者への対応をした。また、WEB 予約、貸出冊数の制限をなくした取り組みは好評であり、今後も継続していく。</p> <p>・一堂に会しての職員研修はできなかったが、各自自主的に研修会に参加した。</p>	9	
<p>○20 歳のブックスタート事業</p> <p>・推薦図書を高校学校司書と選定、及び読みたい本を取りまとめ贈呈した。対象者数 96 名。</p>	10	

施策5 社会体育の充実

～生涯にわたるスポーツの実践と夢、感動を与えることのできる人づくり～

事務事業名	① 生涯スポーツ活動			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
<p>様々な社会体育事業に邑南町体育協会や邑南町スポーツ推進委員協議会が中心になって取り組んだ。また、スポーツ推進委員は住民へのスポーツ推進に関する事業の運営にも積極的に参加され、会の自立に努力されている。いずれの団体も、コロナ禍で中止となる事業もある中で、できる事業は感染対策をしっかりと行いながら誰もが楽しめるスポーツ振興のために事業実施をしている。</p>			9.8	継続
課 題				
誰もが楽しめるスポーツの振興を社会体育推進団体と協働して進め、地域に密着したリーダーを育成する。				
主な事業内容と実施状況				実績 評価
<p>○スポーツの普及拡大 新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、講師派遣による研修は開催することはできなかった。感染症対策を行った上で家庭教育支援事業「逃走中」を開催しており、推進委員の連携が組織強化につながっている。 *家庭教育支援事業「逃走中」:テレビ番組の逃走中を「逃走中～おおなん鬼ごっこバージョン～」として企画した、親子参加型のイベント。</p>				9
<p>○生涯スポーツの支援 ・各団体と協力し、それぞれの団体の運営を尊重し大会、交流会の開催の有無を決定した。 ・関係団体主催の行事に積極的に参加協力(邑南町長杯野球大会)を行った。邑南町バレーボール大会、親善ソフトバレーボール大会、町長杯ファミリーバドミントン大会、町長杯グラウンドゴルフ大会は新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となった。 ・体育協会の支部長会を開き各支部の情報共有やイベントについて共有化を図った。</p>				10
<p>○スポーツにふれあう機会の提供 ・出前講座や家庭教育支援事業「逃走中」を通じて、レクリエーションや軽スポーツ、障がい者スポーツ(ボッチャ、ゴールボール)を紹介し、実践した。(出前講座:年2回)</p>				10
<p>○スポーツ教室の開催 ・NEC バレー合宿が新型コロナウイルス感染拡大防止のため中止となりバレー教室の開催をすることができなかった。 ・邑南町教育委員会と滋賀県ゴールボール協会主催のゴールボール体験会・交流会に小学生、スポーツ推進委員が参加し、障がい者スポーツの理解を深めることができた。</p>				10

施策6 学び合いによる豊かな地域づくり

～個性と活力に満ちた地域協働体制の形成～

事務事業名	① 出前講座			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
各課をはじめ、公立邑智病院、警察署、消防署、町社会福祉協議会など、各			9	改善し

団体でメニューの見直しを行い、全84個のメニューにより受講申込団体の希望に沿った講座が開設できた。		継続
課 題		
各課、各団体でメニューの変更、追加を行った。引き続き申し込み団体の希望に沿えるよう、団体と講師との調整を図っていきたい。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
○出前講座の充実 ・町民憲章の達成に向け、新型コロナウイルス感染症対策を十分に行ったうえで町職員、各団体職員などが地域に出向いて講座を実施し、43講座1,032人の参加を得た。		9

事務事業名	② 住民自治による地域づくりの推進		
総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等	
夢づくりプランについて対象となる地域の要望が無く、今年度も実施していない。	—	改善し 継続	
課 題			
各公民館が、それぞれ地域の実情に合わせて、地域の担い手となる団体、組織との情報共有及び連携をはかり、住民自治による地域づくりの推進を支援する必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○夢づくりプラン策定の支援 ・対象となる地域の要望が無く、今年度は実施していない。		—	
○夢づくりプラン推進のための支援 ・対象となる地域の要望が無く、今年度は実施していない。			

事務事業名	③ 食育の推進		
総合点検・評価	総合 評価	継続、 廃止等	
コロナ禍により食育ネットワーク会議は開催できなかった。今後は食育ネットワーク会議を招集し食育推進についての情報交換のほか、関係機関の連携を図る。また、他団体の手法をも参考にしながら、取り組みを進めていく。	9.0	改善し 継続	
課 題			
食のボランティアが固定化しているため、新たなボランティアの登録について引き続き呼びかけていきたい。 コロナ禍により調理実習を含めた、食の推進に関する活動が実施しづらい状況となっている。町民が生涯にわたって健全な心身を培い、豊かな人間性を育むことができる社会の実現のため、推進活動の手法についても検討する必要がある。			
主な事業内容と実施状況		実績 評価	
○食育の推進		9	

<p>・6月に健康センター及び邑南町役場本庁舎に食育月間の懸垂幕を設置した。 特に健康センターでは、新型コロナウイルスの予防接種の受付会場に掲示をし、多くの町民にPRをすることができた。</p> <p>・毎月19日の「食育の日」について、町広報や公民館だよりを活用して町民へ周知を図った。</p>	
--	--

事務事業名	④ 健康センターの活用		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	今年度の利用は新型コロナ感染拡大防止の為、役場業務分散執務室にアリーナを長期間使用するなど通常利用が出来ず 29,345 人に減少した。一方安心して施設を利用していただけるよう、エレベーターの制御基盤の修繕、館内空調システムの一部について室外機及び室内機の修繕を行った。	8.0	改善し継続
	課題		
	施設の利用形態を検討しながら、利用しやすい環境を整備する必要がある。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○健康センターの活用推進 ・コロナ禍の影響により、一部では、リモートを利用した会議を実施するなど、新たな手法を取り入れたものもみられたが、大きな催しの開催中止が相次ぎ、大幅な利用者減となった。		8

施策7 学校と地域が連携(一体)した取り組み

事務事業名	① 人権・同和教育の推進		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	学社連携により作成したプログラム教材を活用して教材の活用の仕方や支援を行った。	8.0	改善し継続
	課題		
	プログラム教材を使っでの啓発を各館で行ってもらおうよう、引き続き要請、支援をしていく。プログラム教材にこだわらず、教材の作成や研修方法を両者で話し合いながら連携して啓発に取り組めるよう支援していく。		
	主な事業内容と実施状況		実績評価
	○人権・同和教育研修 転入教職員対象に、人権同和教育の現状と課題についての研修を行った。邑南町で取り組んでいる取り組みを理解し、学校教育にどう反映させていくのかを議論するまでには至っていない。		8

事務事業名	② ふるさと学習		
	総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
	学習機会や発表する場を設け、子どもたちがふるさとについて学び、見つめなおす機会となった。ふるさと教育推進事業では、教職員対象にフィールドワーク	9.0	改善し継続

研修を行った。		
課 題		
持続可能な社会の創り手を育てるためにも、子どもにつけさせる資質・能力を学校と地域で共有しながら子どもの教育にあたる必要がある。一部の学校は既に体制づくりができていますが、十分でない学校もあるのが課題である。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○ふるさと学び合い講座</p> <ul style="list-style-type: none"> 各校で児童生徒が地域の方たちと共に学び、実践したことを「おおなんドリーム学びのつどい」で発表した。新型コロナウイルスまん延防止等重点措置により、発表を撮影し、まとめたものを資料として配布した。 おおなん郷土塾 教職員を対象に、町内の「ひと・もの・こと」に触れ、子どもたちの「ふるさと」を体験する研修を行った。 		9

事務事業名	③ 食育の推進		総合 評価	継続、 廃止等
	総合点検・評価			
「食育」の取り組みとして、地産地消コーディネーター1名を配置し、安全安心な地元食材を学校給食で提供した。			9.3	改善し 継続
課 題				
地産地消の推進活動では材料費が高騰する状況の中、コーディネーターが生産者を訪問し活動を行っている。地産地消率は前年度比 3.3%減の 56.5%であった。今後も地元食材の提供により、安全安心な学校給食の提供と「食育」の推進を継続する必要がある。				
主な事業内容と実施状況				実績 評価
<p>○学校給食センター</p> <ul style="list-style-type: none"> 2か所の学校給食センターの運営補助と継続した支援を行った。 安全安心な給食の提供に引き続き努め、献立や給食だよりの発行などを通じて情報を発信し、継続した食育の推進を図った。 				9
<p>○地産地消の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き給食センターに生産者と調理場をつなぐ地産地消コーディネーターを配置し、地元食材の調達などの業務を専門的に取り組んだ。生産者との連携により業務に積極的に取り組まれたが、地産地消率は前年度と比較して減少となった。 新規生産者の開拓に合わせ、現生産者へ必要な食材の種類、量、時期などを情報提供し、地産地消率の向上につなげて行く必要がある。地産地消の推進として、食材費の一部(地元野菜)及び石見和牛肉購入費の一部も継続して町負担とした。 今年度も地元食材を東・西両センターで積極的に活用するよう地産地消コーディネーターを中心に栄養教諭、調理師と共に取り組んだ。 				9
<p>○一校一菜プロジェクト</p> <ul style="list-style-type: none"> 各学校で農産物を育て、それを学校給食や地域の人と食することで、生産から消費までの一貫した過程を体験することを目的とし、11校で取り組み、実施することができた。 				10

事務事業名	④ 読書の普及		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>調べ学習に適した資料の収集と相互貸借により学校図書館へのバックアップが充実してきている。</p> <p>図書館での各種行事や学校での読書普及活動において、多くの読書ボランティアの協力を得ることができた。研修会を1回実施。</p>		9.0	改善し継続
課題			
<p>現在ある資料の見直しを行うとともに、今後も学校図書館をバックアップしていくための資料収集に努める。</p> <p>読書ボランティアの更なる資質向上と新たな読書ボランティアの育成に努め、ネットワークを広げていく必要がある。</p>			
主な事業内容と実施状況			実績評価
<p>○読書の普及</p> <p>・読書ボランティアの協力により、朝の読み語り(全校)、ストーリーテリング(全校)、ブックトーク(1校)などの読書活動が継続できている。</p> <p>・学校での調べ学習などのレファレンスに対応し、資料の収集を行った。</p>		9	
<p>○読書ボランティアの研修</p> <p>・町内の約120名の読書ボランティアの方に小・中学校で朝の読み語りなどに関わってもらった他、図書館での行事などに参加、協力してもらっている。</p> <p>・研修会実施(1回)することができた。</p>		9	

3. 地域文化の創造

～学び合いによる豊かな地域づくり～

施策1 ふるさとの歴史・文化に関する学習の推進

～郷土の文化や文化財を大切に、愛郷心を育てる事業の推進や活動の充実～

事務事業名	① 関係施設の整備・充実と有効活用		
総合点検・評価		総合評価	継続、廃止等
<p>ふるさと教育推進の拠点としての、文化財関係各施設の機能は維持できしており、町内小学校の授業の一環として施設利用があるなど、一定の役割を果たした一方、文化財施設などの老朽化が顕在し始め、今後修繕などを計画的に実施していく必要がある。</p> <p>各施設の情報提供について、施設の活動状況とリンクした情報提供ができた部分もあり、しまねミュージアム協議会を通じた類似館との連携を図ることで、より一層「伝える」「活用する」「体験する」取組を図っていききたい。</p>		9.5	改善し継続
課題			
<p>郷土館、ハンザケ自然館について、町内の小中学校すべてに授業などで利用していただけるよう展示物や企画展、イベントなど両館が持つ情報を各校と共有できる体制づくりをしていく必要があるとともに、地域素材を用いた学習プログラムの開発をすることで、より一層町内の児童・生徒に対する愛郷心の醸成を図っていききたい。ハンザケ自然館は昨年度より町の直営となり、学習施設としての</p>			

役割を今一度確認し、事業を実施していきたい。		
主な事業内容と実施状況		実績 評価
<p>○郷土館の整備・活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 郷土館の収蔵品の整理は随時行った。 展示品の入れ替えを行うなど、展示の充実を図った。 来館された方への対応を随時行った。(来館者数:743人) 郷土館周辺的环境整備として、除草作業を3回実施した。 郷土館活動推進協議会を1回開催した。 企画展を2回開催した。 <p>夏季企画展「戦争と平和のメッセージ展」と題し、286人の集客があった。 秋季企画展「公民館のお宝展」と題し、301人の集約があった。</p>		10
<p>○自然館の活用</p> <ul style="list-style-type: none"> 自然環境に関する講師として講座などを2回行った。 特別天然記念物オオサンショウウオの保護及び調査を10ヶ所行った。 希少動植物及び湿地などの保護や調査を12ヶ所行った。 オオサンショウウオの屋内での人工産卵について、産卵行動は確認したが、産卵には至らなかった。関連する調査研究に取り組んだ。 		9

事務事業名	② ふるさとの歴史・文化に関する調査・学習支援			
総合点検・評価			総合 評価	継続、 廃止等
<p>久喜銀山遺跡に関する講座や小学校での出前講座などを実施し、町民が直接文化財に触れる機会を提供できた。久喜銀山遺跡についても、文化庁をはじめ関係各位のご指導により、16世紀後半から明治時代までの長い歴史を持つ遺跡であることが判明し、国史跡として指定された。</p>			9.0	改善し 継続
<p>課 題</p> <p>特に町内に所在する伝統芸能について、元気館において日本遺産となった石見神楽を紹介するなど、保存継承に向けた取り組みをすることができた。他の伝統芸能についても、保存継承が図られるよう引き続き取り組みを行っていききたい。</p> <p>町内に所在する文化財について、今後包括的な保存の仕方や活用のあり方について議論をしていく必要がある。</p>				
主な事業内容と実施状況			実績 評価	
<p>○文化財の保護・保存・調査・研究</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化財保護審議会を1回行った。 文化財保護審議会委員を対象として、町内の指定文化財の再確認及び研修を実施した。 縄手吹所跡の発掘調査を実施し、9基の製錬炉跡を検出した。これらの遺構は、周辺の出土遺物や分析などの結果 16 世紀後半から 17 世紀初頭に操業したものであることが判明した。 久喜銀山遺跡調査指導委員会を2回行った。10月11日付けで国史跡の指定を受けた。記念式典を開催し、基調講演及び調査成果報告などで史跡の価値や評価を町内外に周知することができた。 各種開発協議に伴う埋蔵文化財協議を47件行った。 			8	

○文化財の活用 ・出前講座の講座名「ふるさとを学ぼう」などで6回対応した。受講者は累計198名だった。	9
○伝統芸能の保存伝承の推進 ・伝統文化継承保存団体間の連携を図るための会議などは開催できなかったが、石見神楽が日本遺産に認定されたことを契機に、伝統文化の継承や保存に対する各団体構成員の意識の高揚が見られた。 ・親子体験型ワークショップを2回企画したが、新型コロナウイルスの影響で開催を見送った。今後、対策を講じた上で開催する方針。	10

事務事業名	③ 芸術・文化に関する学習支援	
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
ハンザケ自然館で、写真展を複数回開催した。新型コロナウイルスの影響で減少していた来館者の確保につなげた。また、SNS の運用も開始し、様々な取り組みを全国に情報発信をした。	10	改善し継続
課 題		
邑南の自然・景観写真展について、邑南町の自然の大切さを啓発する観点を勘案しつつ、SNS などを用いた情報発信など、より多くの人に邑南町の豊かな自然に着目してもらえるような方法について検討していく必要がある。		
主な事業内容と実施状況		実績評価
・自然館で「邑南の自然・景観写真展」を1回、「邑南の野鳥展」を2回開催した。前者では応募者の人数は15人と例年通りだったが、新規応募者が増え、展示の様相が新たになった。後者では野鳥ファンや写真愛好家の来館が増えた。 ・自然館でインスタグラム、Twitter の運用を開始した。コロナ禍で来館することができない方へ、オオサンショウウオの食事風景や身体測定の様態などを発信。インスタグラムは683人、Twitter は602人のフォロワーがいる。		10

4. 人権教育・啓発の推進

施策1 人権教育

～不合理な差別を許さない人権教育と啓発の深化～

事務事業名	① 人権・同和教育	
総合点検・評価	総合評価	継続、廃止等
新型コロナウイルス感染拡大防止のためやむなく中止した研修会があったが、オリンピックを契機とした障がい・障がい者理解研修や、性の多様性、ネットトラブル関係の研修などを各公民館や企業団体などで行い、実施目標回数など達成することができた。また、リモートを利用することで参加者が集まりやすいよう取り組んだ。継続して取り組んでいる各種団体の啓発推進者への講座も開催し、事業所からも高評価の感想もあった。 開催した研修会のアンケート結果では、参加者の固定化傾向解消にむけて、初めての参加者がどの程度あるか、アンケートに項目を設けて調査した。結果2講演の結果ではあるが回収数に対して初参加者が20%あり、一定数初参加者	9.0	継続

<p>があることが伺えた。</p>		
<p>課 題</p>		
<p>引き続き、講演会への参加者の固定化を解消していくため、内容や告知の方法を検討していく。また、作成した学社連携啓発プログラム教材、同和問題DVD及びDVD「心のバリアフリー」、書籍「部落解放運動史(全国水平社創立 100年)」を公民館主事会などで引き続き活用していく。小グループ、保護者会などへの啓発が広がり、講演会への参加意識を高め、固定化解消へとつなげて行く必要がある。ひきつづきアンケートで初参加者の把握を行う。</p> <p>また、各種団体の啓発推進者対象の講座を継続して開催していくことで人権課題を自分の問題としてとらえ、新たな研修参加者へとつながる取組が必要である。</p>		
<p>主な事業内容と実施状況</p>		<p>実績 評価</p>
<p>○職員の研修</p> <p>・職員研修を7月、11月、3月に実施し、144名参加した。今後も継続して、職員研修はできるだけ全職員が参加するよう関係課と連携を強めて参加してもらうよう働きかける。</p> <p>島根県職員の制度を参考に人権啓発研修推進員制度を平成30年度から取り入れ、職員の意識啓発につながるよう部署ごとの人権研修を進めることとし全課で実施した。</p> <p>県の主催する社会人権・同和教育啓発基礎講座に公民館主事未受講者及び新規採用から3年目までの職員を対象として基礎講座へ参加した。(3回延べ27名)</p>		<p>10</p>
<p>○各種団体への啓発</p> <p>・邑南町人権啓発推進講座へ各種団体から参加があった。11団体＋役場(推進員含む)＋公民館24名。昨年度よりも参加者は減少したが、初めて参加の企業があった。</p> <p>・動画配信や資料配布をして研修を実施する団体も増えている。</p>		<p>9</p>
<p>○邑南町人権・同和教育推進協議会との連携</p> <p>・総会開催の準備段階からしっかりと連携できた。年3回の研修会を開催した。また県の主催する研修会や各種研修会を関係課へも周知し、広く案内を行い、積極的に参加した。</p> <p>参加者の固定化がみられるものの一定程度初参加者があることが伺えた。研修会のアンケートでは、行動へと向かう前向きな感想が増えてきている様子がうかがえる。</p>		<p>9</p>
<p>○進路保障学社連絡協議会の開催</p> <p>・中学校区ごとに学期に1回以上開催した。県立学校、SSW、浜田教育事務所の参加も得ながらアドバイスもいただき、人権・同和教育の推進状況や支援の必要な児童生徒についての取組内容を検証するなど情報交換することができた。</p> <p>今後も引き続き人権・同和教育の推進や進路保障に対する理解と、取組みが各校に徹底されるよう開催していく。</p>		<p>9</p>
<p>○人権に関する住民意識調査の分析</p> <p>令和2年度に行った「邑南町人権問題に関する町民意識調査」の集計結果について、専門委員会で前回調査(平成25年調査)と比較しながら検証を行った。</p> <p>女性が男性に比べ差別を受けていると感じている割合が高いなどの課題も出ている。課題解決のために、人権に対する正しい知識を身につけ、差別を見抜き差別をなくす「多様性教育」を推進していく。</p>		<p>9</p>
<p>○各種教材の活用</p> <p>・職場研修や、職員の自己研鑽でDVDの貸し出しを行った(3件)。少しずつではあるが、教材活用を広げていき、支援していく。</p>		<p>8</p>

資料：教育委員会点検・評価に係る自己評価の考え方

【総合評価】 主な事業内容の実績評価をもとに総合的に判断する。実績評価の平均点で表示する。

【継続、廃止等】 「総合点検・評価」及び「課題」をもとに今後の方向を示す。「継続」、「改善し継続」、「廃止」のいずれかを表示する。

【実績評価】 「主な事業内容と実施状況」欄にある事業内容ごとに実績に対する評価を行う。数値化可能なものは、目標達成度・主要成果を考慮して10段階評価することとし、それ以外は、総合判断と同じく10段階評価することとする。

■実績評価の点数について

*業務（事務）目標がどの程度達成されたか

評点	達成度合	数値化可能な場合の基準*1	数値化できない場合の総合判断の基準
10	目標どおり以上の成果を達成	達成水準どおり（100%以上）の成果を挙げた	期待どおり以上の成果を挙げた
9	ほぼ目標に近い成果を達成	達成水準に対して90%以上の成果を挙げた	ほぼ期待どおりの成果を挙げた
8		達成水準に対して80%以上の成果を挙げた	今一步、期待どおりの成果に至らなかった
7	目標を未達成	// 70% //	期待どおりの成果には、至らなかった
6		// 60% //	
5		// 50% //	
4		// 40% //	
3		// 30% //	
2	目標を著しく未達成	達成水準に対して30%未満の場合	期待を大幅に下回る結果となった
1		達成水準に対して10%以下	

*1 数値化可能な場合の基準

①目標達成度：次の4つを勘案し、関連するものの数値の平均を求める。

ア（回数実施率） 実施数／目標数 イ（定員充足数） 実人数／目標数 ウ（予算執行率） 実施額／予算額
エ（費用対効果） 事業費／講座参加者数 ~ただし、主観的な判断となる。

②主要成果：アンケート結果の声から数値化 ①及び②で該当があれば、個々に点数化し平均点を事業内容ごとに点数化。①②のどちらにもない場合は総合判断とする。